

GA-8TRX330(-L)

Intel® Pentium® 4 Socket 478 プロセッサマザーボード

ユーザーズマニュアル

Rev. 1002

12MJ-8TRX330L-1002

Declaration of Conformity

N.V. Manufacturer/Importer
(full address)

G.B.T. Technology Trading GmbH
Ausseilager Weg 41, Ifc 20337 Hamburg, Germany

(description of the apparatus, system, or installation to which it refers)

Motherboard

GA-8TRX330

GA-8TRX330

(reference to the specification under which conformity is declared)

In accordance with 89/338 EEC-EMC Directive

GA-8TRX330



(EC conformity marking)

This manufacturer also declares the conformity of above mentioned product
with the relevant required safety standards in accordance with LVD and EEC

Safety requirements for mains operated electronic and related apparatus for
household and similar general use

Safety of household and similar
electrical appliances

Manufacturer/Importer

Signature: Timmy Huang

(Stamp)

Date Aug. 26, 2004

Name : Timmy Huang

DECLARATION OF CONFORMITY

Per FCC Part 2 Section 2.1077(a)



Responsible Party Name: G.B.T. INC. (U.S.A.)

Address: 17358 Railroad Street
City of Industry, CA 91748

Phone/Fax No: (818) 854-9338/ (818) 854-9339

hereby declares that the product
Product Name: Motherboard

Model Number: GA-8TRX330

Conforms to the following specifications:

FCC Part 15, Subpart B, Section 15.107(a) and Section 15.109

(a) Class B Digital Device

Supplementary Information:

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful and (2) this device must accept any interference received, including that may cause undesired operation.

Representative Person's Name: ERIC LU

Signature: Eric Lu

Date: Aug. 26, 2004

著作権

© 2004 GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD. 版權所有。

本マニュアルに記載された商標は、それぞれの会社に対して法的に登録されたものです。

通知

本製品に提供される書面による内容は Gigabyte の所有物です。

本マニュアルのいかなる部分も、Gigabyte の書面による事前の許可なしには、いかなる手段によっても複製、コピー、翻訳または伝送を行うことができません。仕様と機能は、将来予告なしに変更することがあります。

製品マニュアル分類

本製品の使用を支援するために、Gigabyte は次のようにユーザーマニュアルを分類しています。

- クイックインストールについては、製品に付属する「ハードウェア取り付けガイド」を参照してください。
- 詳細な製品情報と仕様については、「製品のユーザーマニュアル」をよくお読みください。
- Gigabyte の独自の機能に関する詳細については、Gigabyte の Web サイトの「技術ガイド」にアクセスしてください。pdf 形式で情報をダウンロードできます。

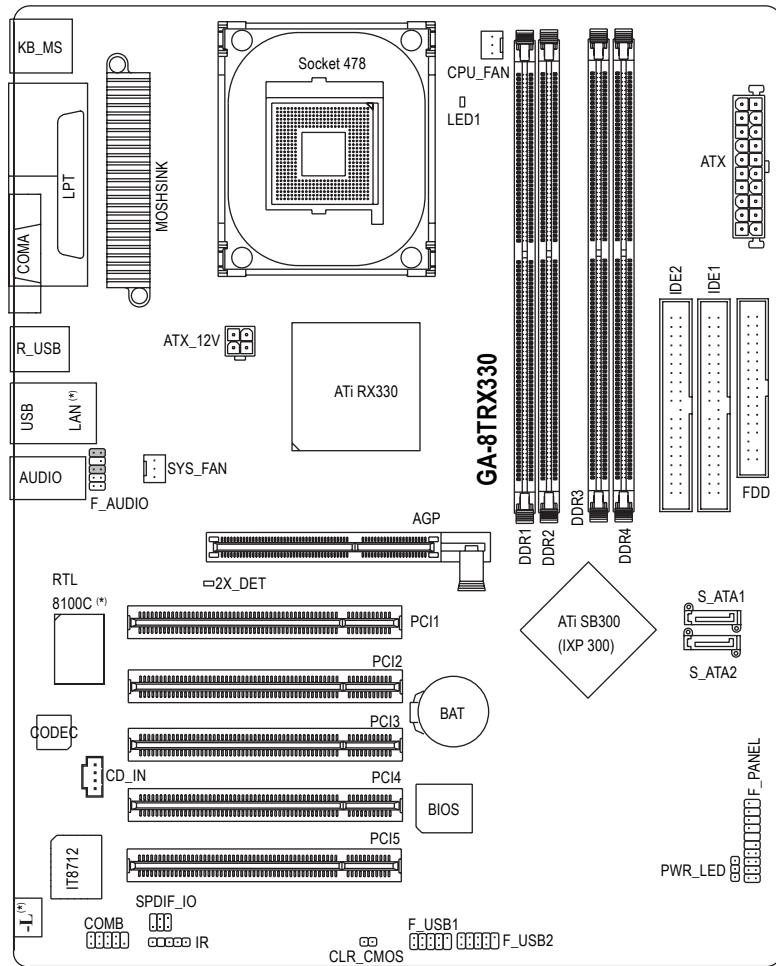
詳細な製品情報については、Gigabyte の Web サイト : www.gigabyte.com.tw にアクセスしてください。

目次

GA-8TRX330(-L) マザーボードのレイアウト	6
ブロック図	7
第1章 ハードウェアの取り付け	9
1-1 取り付ける前に考慮すべき事柄	9
1-2 機能のまとめ	10
1-3 CPUとヒートシンクの取り付け	12
1-3-1 CPUの取り付け	12
1-3-2 ヒートシンクの取り付け	13
1-4 メモリの取り付け	14
1-5 拡張カードの取り付け	16
1-6 I/O背面パネルの概要	17
1-7 コネクタの概要	18
第2章 BIOS セットアップ	29
メインメニュー（例：BIOSバージョン:E19）	30
2-1 Standard CMOS Features	32
2-2 Advanced BIOS Features	34
2-3 Integrated Peripherals	35
2-4 Power Management Setup	38
2-5 PnP/PCI Configurations	40
2-6 PC Health Status	41
2-7 Frequency/Voltage Control	42
2-8 Top Performance	43
2-9 Load Fail-Safe Defaults	44
2-10 Load Optimized Defaults	44
2-11 Set Supervisor/User Password	45
2-12 Save & Exit Setup	46
2-13 Exit Without Saving	46

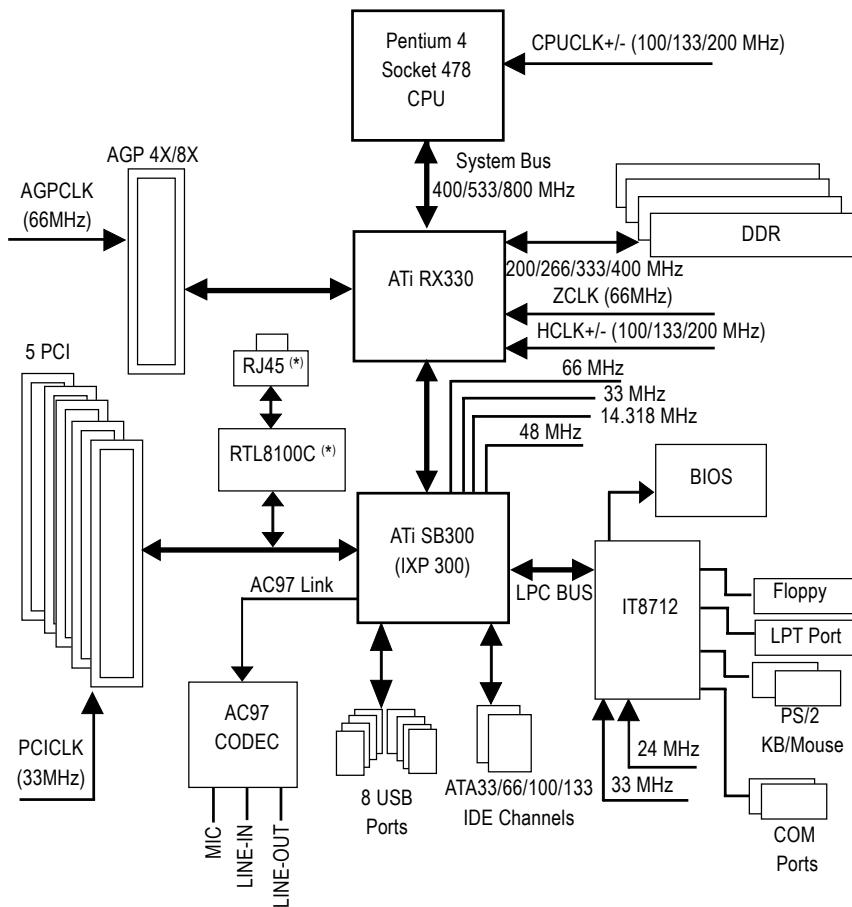
第3章 ドライバのインストール	49
3-1 Install Chipset Drivers	49
3-2 Software Applications	50
3-3 Driver CD Information	50
3-4 Hardware Information	51
3-5 Contact Us	51
第4章 付録	53
4-1 ユニークなソフトウェアユーティリティ	53
4-1-1 Xpress Recoveryの概要	53
4-1-2 フラッシュBIOS方式の概要	56
4-1-3 2/4/6 チャンネルオーディオ機能の概要	65
4-2 トラブルシューティング	71

GA-8TRX330(-L) マザーボードのレイアウト



(*) GA-8TRX330-Lの場合のみ。

ブロック図



(*) GA-8TRX330-Lの場合のみ。

第1章 ハードウェアの取り付け

1-1 取り付ける前に考慮すべき事柄

コンピュータを準備する

マザーボードには、静電放電(ESD)の結果損傷する可能性のある精巧な電子回路やコンポーネントが数多く含まれています。従って、取り付ける前に、以下の指示に従ってください。

1. コンピュータの電源をオフにし、電源コードからプラグを抜いてください。
2. マザーボードを処理しているとき、金属リード線やコネクタには触れないようにしてください。
3. 電子コンポーネント (CPU、RAM) を処理しているとき、静電放電(ESD)カフを着用することをお勧めします。
4. 電子コンポーネントを取り付ける前に、これらのアイテムを静電防止パッドの上に置くか、静電遮断コンテナの中に入れてください。
5. マザーボードから電源コネクタを抜く前に、電源装置のスイッチがオフになっていることを確認してください。

取り付けに関する通知

1. 取り付ける前に、マザーボードのスティッカを取り外さないでください。これらのスティッカは保証の確認に必要です。
2. マザーボードまたはハードウェアを取り付ける前に、マニュアルに付属する情報をよくお読みください。
3. 製品を使用する前に、ケーブルと電源コネクタが接続されていることを確認してください。
4. マザーボードの損傷を防ぐために、ネジがマザーボードの回路やそのコンポーネントに触れないようにしてください。
5. マザーボードの上またはコンピュータのケース内部に、ネジや金属コンポーネントが残っていないことを確認してください。
6. 平らでない面の上にコンピュータシステムを設置しないでください。
7. 取り付けプロセスの間にコンピュータの電源をオンにすると、システムコンポーネントが損傷するだけでなく、ユーザーが負傷する危険があります。
8. 取り付けステップについて不明確な場合、または製品の使用に関して問題がある場合、専門のコンピュータ技術者にお問い合わせください。

保証の対象外となる例

1. 自然災害、偶発事故または人為による損傷。
2. ユーザーマニュアルで推奨された条件に違反した結果の損傷。
3. 不適切な取り付けによる損傷。
4. 保証されていないコンポーネントの仕様による損傷。
5. 許可されたパラメータを超えて使用したことによる損傷。
6. 非公認のGigabyte製品とみなされる製品。

1-2 機能のまとめ

CPU	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 最新の Intel® Pentium® 4 Socket 478 CPU をサポート ◆ 800/533/400MHz FSB をサポート ◆ L2 キャッシュはCPUで異なります
チップセット	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ノースブリッジ ATI RX330 ◆ サウスブリッジ ATI SB300(IXP 300)
メモリ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 4 DDR DIMM メモリスロット (最大 4GB のメモリをサポート) ^(注 1) ◆ 2.5V DDR DIMM をサポート ◆ デュアルチャンネル DDR 400/333/266/200 DIMM をサポート ^(注 2)
スロット	<ul style="list-style-type: none"> ◆ PCI スロット (x5) ◆ AGP スロット (x1)
IDE 接続	<ul style="list-style-type: none"> ◆ IDE 接続 (UDMA 33/ATA 66/ATA 100/ATA 133) (x2) により、4 つの IDE デバイスの接続が可能になります。
FDD 接続	<ul style="list-style-type: none"> ◆ FDD 接続 (x1) により、2 つの FDD デバイスの接続が可能になります
オンボード SATA	<ul style="list-style-type: none"> ◆ シリアル ATA 接続(x2)
周辺機器	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 標準/EPP/ECP モードをサポートするパラレルポート (x1) ◆ シリアルポート (COMA) (x1)、オンボード COMB 接続 ◆ USB 2.0/1.1 ポート (x8) (ケーブルを通して背面 x4、正面 x4) ◆ オーディオコネクタ (x1) ◆ IR コネクタ (x1) ◆ PS/2 キーボードポート (x1) ◆ PS/2 マウスポート (x1)
オンボード LAN ^(*)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ オンボード RTL8100C チップセット (10/100 Mbit) ◆ RJ 45 ポート (x1)
オンボード	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Realtek ALC655 CODEC
オーディオ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Jack-Sensing をサポート ◆ 2 / 4 / 6 チャンネルオーディオをサポート ◆ ライン出力 / フロントスピーカー(x2) ◆ ライン入力 / 背面スピーカー(x2)(s/w スイッチによる) ◆ マイク入力 / 中央およびサブウーファ(s/w スイッチによる) ◆ SPDIF 入力 / 出力接続をサポート ◆ CD 入力

(注 1) 標準 PC アーキテクチャにより、ある量のメモリはシステム使用向けに予約され、従って実際のメモリサイズは表示された量より少くなります。例えば、4 GB のメモリサイズはシステム起動中に 3.xxGB メモリとして表示されます。

(注 2) チップセットの制限により、同じチャンネルに取り付けたメモリモジュールのメモリチップの総数は 8 つを超えることはできません。8 つ以上になると、DDR400 メモリは DDR333 の速度にまで落ちます。
マザーボードでサポートされるメモリモジュールの詳細については、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。

^(*) GA-8TRX330-L の場合のみ。



1-3 CPUとヒートシンクの取り付け



CPUを取り付ける前に、次の条件に従ってください。

1. マザーボードがCPUをサポートしていることを確認してください。
2. CPUのぎざぎざのある1つの隅に注意してください。間違った方向にCPUを取り付けると、CPUは正しく挿入されません。この場合、CPUの挿入方向を変更してください。
3. CPUとヒートシンクの間にヒートシンク用接着剤を均等に塗ってください。
4. システムを使用する前にヒートシンクがCPUに取り付けてあるか確認してください。取り付けられていないと、過熱してCPUが完全に損傷することがあります。
5. プロセッサの仕様に従って、CPUのホスト周波数を設定してください。ハードウェアの仕様を超えてシステムバスの周波数を設定することはお勧めしません。周辺機器の要求される標準を満たしていません。正しい仕様を超えて周波数を設定したい場合、CPU、グラフィックスカード、メモリ、ハードドライブなどのハードウェア仕様に従って行ってください。



HT機能性の要求内容 :

コンピュータシステム用にハイパスレッディングテクノロジを有効にするには、次のプラットフォームコンポーネントのすべてが必要となります。

- CPU: HTテクノロジを搭載した Intel® Pentium 4 プロセッサ。
- チップセット: ATI テクノロジをサポートする HT チップセット。
- BIOS: HT テクノロジをサポートし有効にしている BIOS。
- OS: HT テクノロジ用に最適化されたオペレーティングシステム。

1-3-1 CPUの取り付け



図1
ロッドを65の角度に合わせます
ロッドの動きは65度までは少し固く感じるかもしれません。そのままロッドを90まで引くと「クリック」音が聞こえます。

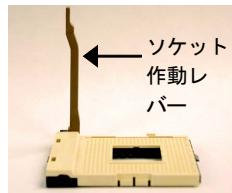


図2
ソケット作動レバー
ロッドを90度の角度まで引き寄せます。

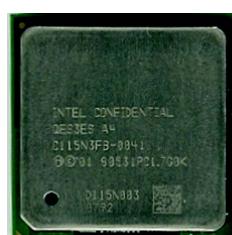


図3
CPU上面ビュー。



図4
ソケットのピン1を探し、CPUの上隅に(金色の)カットエッジを見つけます。CPUをソケットに差し込みます。



1-3-2 ヒートシンクの取り付け



CPU クールファンを取り付ける前に、次の警告をしっかりと守ってください：

CAUTION

1. Intel 公認のクーリングファンを使用してください。
2. CPU とクーリングファンの熱伝導を良くするために、感熱テープを貼るようにお勧めします。
(CPUクーリングファンは、感熱糊の硬化によってCPUにしっかりと固定されることがあります。このとき、クーリングファンを取り外そうとすると、クーリングファンと共にCPUソケットからプロセッサだけが外れ、そのためプロセッサが破損することがあります。これを防ぐために、感熱糊の代わりに感熱テープを使うか、細心の注意を払ってクーリングファンを取り外すようにお勧めします)。
3. CPU ファンの電源ケーブルがCPU ファンのコネクタに差し込まれていることを確認します。これで、取り付けは完了しました。取り付け手順の詳細については、CPUクーリングファンのユーザーズマニュアルを参照してください。



図1
クーリングファンの支持台をマザーボードのCPUソケットに固定します。

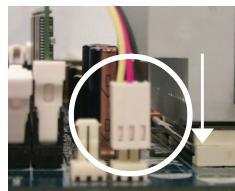


図2
CPU ファンがCPU ファンコネクタに取り付けられていることを確認できたら、取り付けは完了です。

1-4 メモリの取り付け



メモリモジュールを取り付ける前に、次の条件に従ってください:

1. 使用するメモリがマザーボードでサポートされていることを確認してください。同じ容量、仕様、ブランドのメモリを使用することをお勧めします。
2. メモリモジュールを取り付けたり取り外したりする前に、ハードウェアの損傷を防ぐためにコンピュータの電源がオフになっていることを確認してください。
3. メモリモジュールは、絶対に確実な挿入設計が施されています。メモリモジュールは、一方に向にしか挿入できません。モジュールを挿入できない場合、方向を変えてください。

マザーボードはDDRメモリモジュールをサポートしているため、BIOSはメモリ容量と仕様を自動的に検出します。メモリモジュールは、一方向にしか挿入できないように設計されています。使用されるメモリ容量は、スロットごとに異なっていてもかまいません。

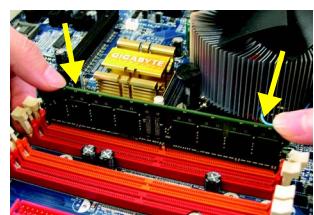
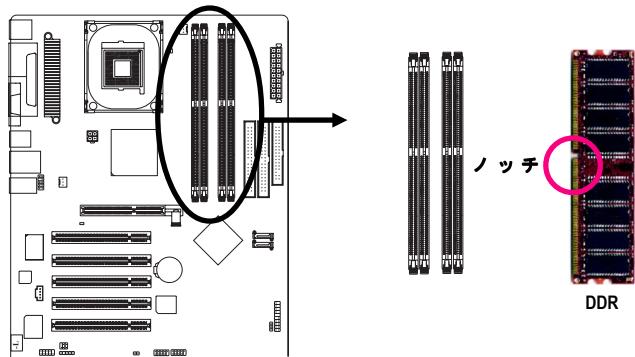


図 1
DIMM ソケットにはノッチがついているため、DIMM メモリモジュールは一方向にしかフィットしません。DIMM メモリモジュールを DIMM ソケットに垂直に挿入してください。それから、ソケットを押し下げます。

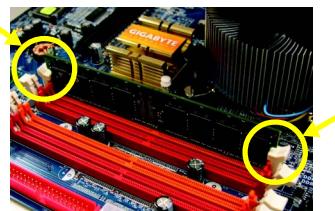


図 2
DIMM ソケットの両端のプラスチッククリップを閉じ、DIMM モジュールをロックします。
DIMM モジュールを取り外すには、取り付けステップを逆に行ってください。



デュアルチャンネル DDR

GA-8TRX330(-L)は、デュアルチャンネルテクノロジをサポートします。デュアルチャンネルテクノロジを操作した後、メモリバスのバンド幅は倍増されます。GA-8TRX330 (-L)には4つのDIMMソケットが組み込まれており、各チャンネルには次のように2つのDIMMソケットがあります：

- » チャンネルA : DDR 1, DDR 2
- » チャンネルB : DDR 3, DDR 4

デュアルチャンネルテクノロジを操作した場合、Intelチップセット仕様の制限により、次の説明に注意してください。

1. DDR (x 1/3) メモリモジュールが取り付けられます：デュアルチャンネルテクノロジは、1つだけのDDRメモリモジュールが取り付けられているとき、作動できません。
2. 2つのDDRメモリモジュールが取り付けられます(同じメモリサイズとタイプ)：デュアルチャンネルテクノロジは、2つのメモリモジュールがチャンネルAとBに個別に挿入されているときに作動します。同じチャンネルに2つのメモリモジュールを取り付けると、デュアルチャンネルテクノロジは作動しません。
3. 4つのDDRメモリモジュールを取り付ける場合：4つのメモリモジュールを同時に取り付ける場合、これらのモジュールが同じメモリサイズとタイプである場合のみ、デュアルチャンネルテクノロジが作動します。

デュアルチャンネルテクノロジが機能するには、2つのDDR/DDRメモリモジュールを同じ色のDIMMに差し込むことを強くお勧めします。

次の表は、デュアルチャンネルテクノロジの組み合わせを示しています：(DS:両面、SS:片面)

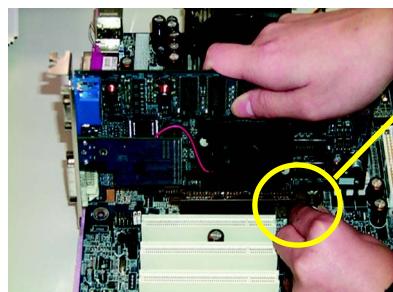
	DDR 1	DDR 2	DDR 3	DDR 4
メモリモジュール(x 2)	DS/SS	X	DS/SS	X
	X	DS/SS	X	DS/SS
メモリモジュール(x 4)	DS/SS	DS/SS	DS/SS	DS/SS

1-5 拡張カードの取り付け

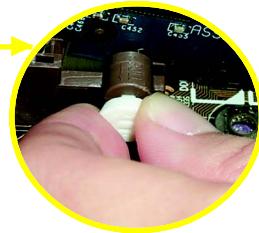
以下に説明するステップに従って、拡張カードを取り付けることができます：

1. 拡張カードをコンピュータに取り付ける前に、関連するカードの操作マニュアルをお読みください。
2. コンピュータのシャーシカバー、ネジ、スロットブラケットをコンピュータから取り外します。
3. 拡張カードをマザーボードの拡張スロットにしっかりと押し込みます。
4. カードの金属節食部がスロットにしっかりと取り付けられていることを確認してください。
5. ネジを元に戻して、拡張カードのスロットブラケットに固定します。
6. コンピュータのシャーシカバーを元に戻します。
7. コンピュータの電源をオンにし、必要に応じて、BIOSから拡張カードのBIOSユーティリティをセットアップします。
8. オペレーティングシステムから関連するドライバをインストールします。

AGP拡張カードの取り付け：



AGPカード

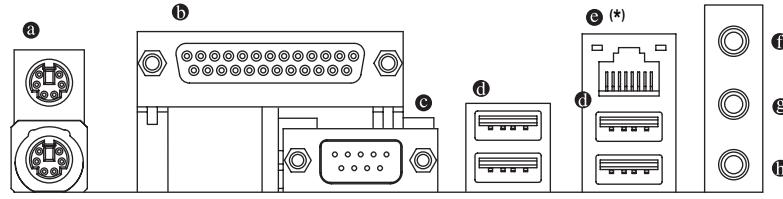


AGPカードの取り付けや取り外しを行うとき、AGPスロットの端にある小さな白い取り出し可能バーを慎重に引っ張ってください。AGPカードをオンボードAGPスロットに合わせ、スロットにしっかりと押し下げます。AGPカードが小さな白い取り出し可能バーによりロックされていることを確認してください。



AGP 2x (3.3V) カードカードを取り付けると、2X_DET が点灯し、サポートされていないグラフィックスカードが差し込まれていることを示します。これは、AGP 2x (3.3V) がチップセットによってサポートされていないため、システムが標準では起動しないことをユーザーに知らせる警告です。

1-6 I/O 背面パネルの概要



① PS/2 キーボードと PS/2 マウスコネクタ

PS/2 キーボードとマウスを取り付けるには、マウスを上のポート(緑)に、キーボードを下のポート(紫)に差し込みます。

② パラレルポート

パラレルポートにより、プリンタ、スキャナ、その他の周辺装置を接続できます。

③ COM A (シリアルポート)

シリアルベースのマウスまたはデータ処理デバイスに接続します。

④ USB ポート

デバイスを USB コネクタに接続する前に、USB キーボード、マウス、スキャナ、ZIP、スピーカーなどのデバイスに標準の USB インターフェイスが搭載されていることを確認してください。また、OS が USB コントローラをサポートしていることも確認してください。OS が USB コントローラをサポートしていない場合、OS ベンダーに連絡してパッチまたはドライバのアップグレードを入手してください。詳細については、OS またはデバイスベンダーにお問い合わせください。

⑤ LAN ポート^(*)

付属のインターネット接続は Gigabit イーサネットで、10/100Mbps のデータ転送速度を提供しています。

⑥ ライン入力

CD-ROM、ウォークマンなどのデバイスは、ライン入力ジャックに接続できます。

⑦ ライン出力

ステレオスピーカー、イヤホンまたは正面サラウンドチャンネルをこのコネクタに接続します。

⑧ MIC 入力

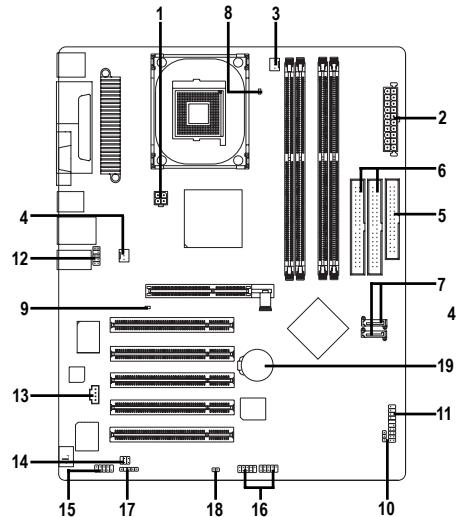
マイクをMIC入力ジャックに接続できます。



オーディオソフトウェアを使用して、2-/4-/6-チャンネルオーディオ機能を構成することができます。

^(*) GA-8TRX330-Lの場合のみ。

1-7 コネクタの概要



1) ATX_12V	11) F_PANEL
2) ATX (電源コネクタ)	12) F_AUDIO
3) CPU_FAN	13) CD_IN
4) SYS_FAN	14) SPDIF_IO
5) FDD	15) COMB
6) IDE1/IDE2	16) F_USB1 / F_USB2
7) SATA1/SATA2	17) IR
8) LED1	18) CLR_CMOS
9) 2X_DET	19) BAT
10) PWR_LED	

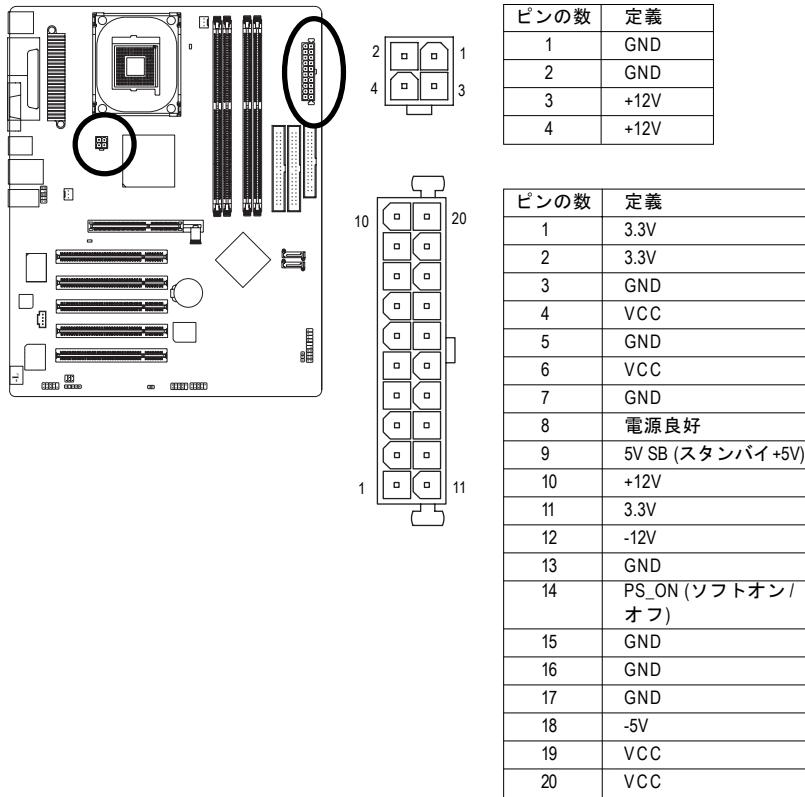
1/2) ATX_12V/ATX (電源コネクタ)

電源コネクタを使用すると、電源装置はマザーボードのすべてのコンポーネントに安定した電力を供給することができます。電源コネクタを接続する前に、すべてのコンポーネントとデバイスが正しく取り付けられていることを確認してください。電源コネクタをマザーボードの正しい場所に合わせ、しっかりと接続してください。

ATX_12V 電源コネクタは、主にCPUに電力を供給します。ATX_12V 電源コネクタが接続されていない場合、システムは起動しません。

注意!

システムの電圧要求を処理できる電源装置をご使用ください。高い消費電力に耐えられる電源装置をご使用になることをお勧めします(300W以上)。要求される電力を供給できない電源装置をご使用になる場合、システムが不安定になったり、システムが起動できない場合があります。



3/4) CPU_FAN / SYS_FAN (クーラーファン電源コネクタ)

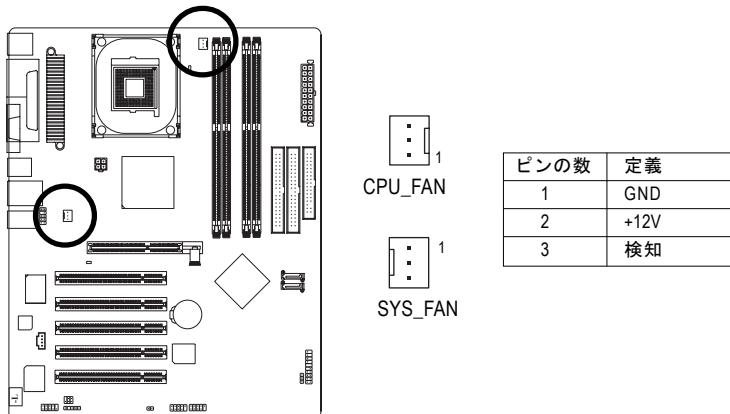
冷却ファン電源コネクタは3ピン電源コネクタを通して+12Vの電圧を供給し、フル・ブルーフの接続デザインが備わっています。

ほとんどの冷却ファンには色の付いた電源コネクタワイヤーが使われています。赤い電源コネクタワイヤーは+12Vの電圧が必要なことを示しています。黒いコネクタワイヤーはアースワイヤー(GND)です。

必ず冷却ファンに電源を接続し、システムの過熱やエラーを避けてください。

注意!

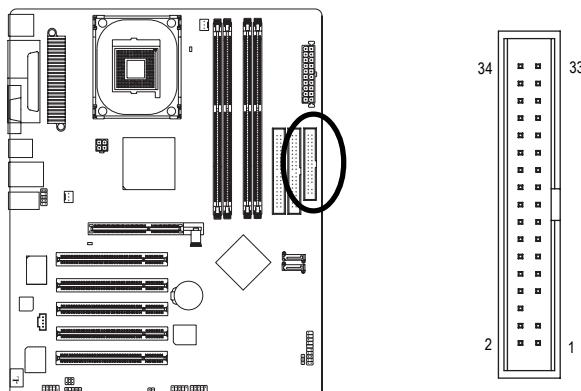
必ずCPU ファンに電源を接続し、CPU の過熱やエラーを避けてください。



5) FDD (フロッピーコネクタ)

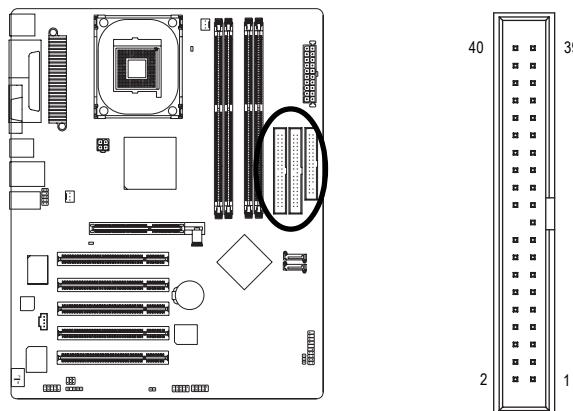
FDDコネクタはFDDケーブルを接続し、ケーブルの他の端はFDD ドライブに接続するために使用されます。サポートされるFDD ドライブの種類は、次の通りです。360KB、720KB、1.2MB、1.44MB、2.88MB。

赤い電源コネクタワイヤをPIN1位置に接続してください。



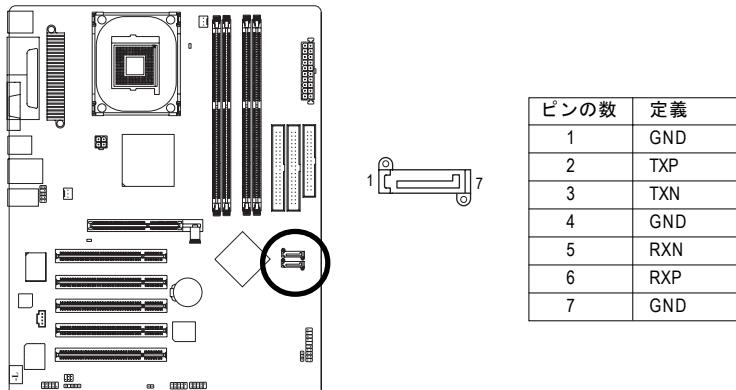
6) IDE1/IDE2 (IDE コネクタ)

IDEデバイスは、IDEコネクタを通してコンピュータに接続します。1つのIDEコネクタは1本のIDEケーブルに接続し、1本のIDEケーブルは2つのIDEデバイス(ハードドライブまたは光ドライブ)に接続できます。2つのIDEデバイスを接続したい場合、IDEデバイスのジャンパをマスターとして、もう一方のジャンパをスレーブとして設定してください(設定の情報については、IDEデバイスに付属する取扱説明書を参照してください)。



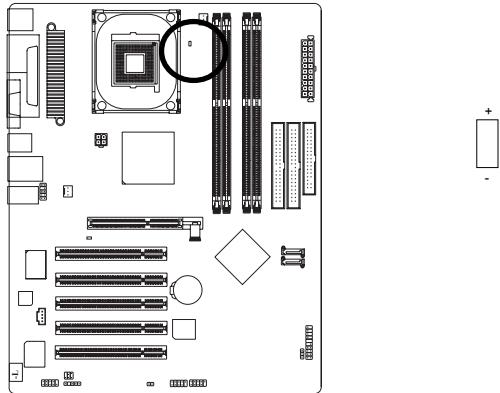
7) SATA1/SATA2 (シリアル ATA コネクタ)

シリアルATAは、150MB/秒の転送速度を提供できます。正しく作動するためには、シリアルATAのBIOS設定を参照し、適切なドライバをインストールしてください。

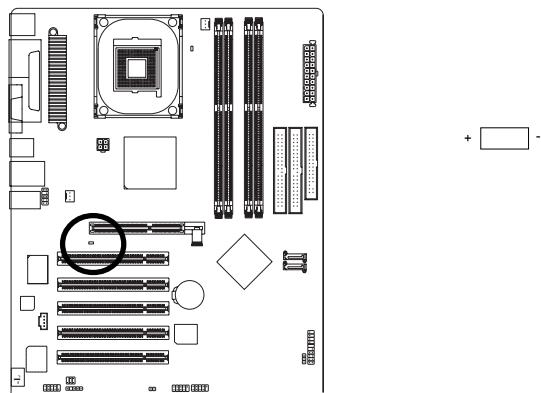


8) LED1

DIMM LEDがオンの間、メモリモジュールを取り外さないでください。2.5Vスタンバイ電圧により、ショートまたは予期せぬ損傷を被ることがあります。メモリモジュールの取り外しは、AC電源コードが取り外されているときのみ行ってください。

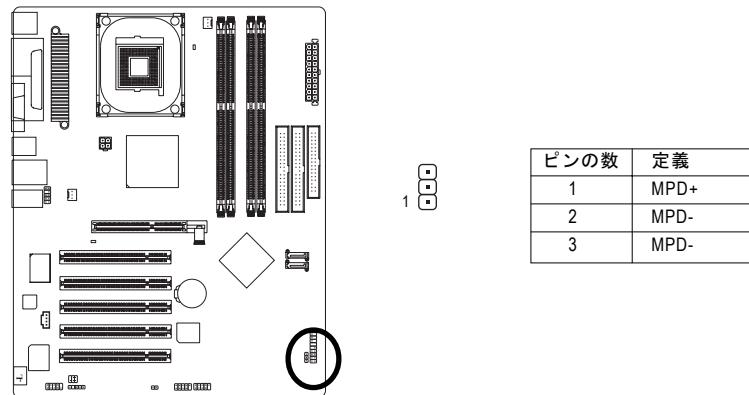
**9) 2X_DET**

AGP 2X (3.3V) カードを取り付けると、2X_DETが点灯し、サポートされていないグラフィックスカードが差し込まれていることを示します。これは、AGP 2X (3.3V)がチップセットによってサポートされていないため、システムが標準では起動しないことをユーザーに知らせる警告です。



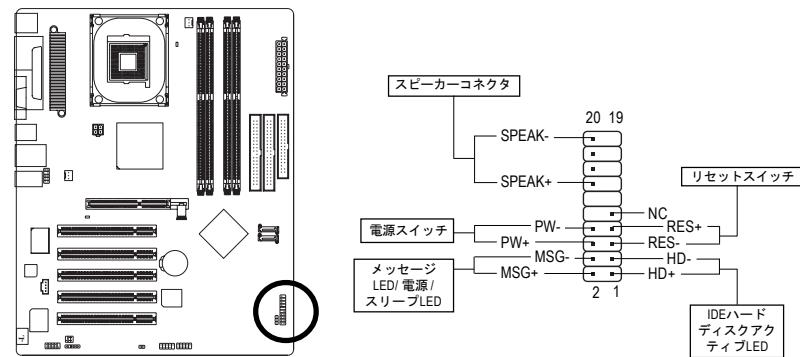
10) PWR_LED

PWR_LEDはシステム電源インジケータに接続して、システムの電源がオンまたはオフになっていることを示します。システムがサスPENDモードに入っているとき、点滅します。



11) F_PANEL (正面パネルジャンパ)

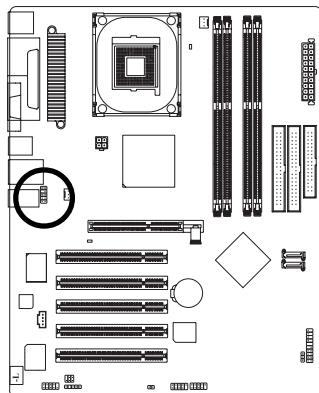
シャーシ正面パネルの電源LED、PCスピーカー、リセットスイッチ、電源スイッチなどを、以下のピン割り当てに従ってF_PANELコネクタに接続してください。



HD (IDE ハードディスクアクティブ LED) (青)	ピン 1: LED 陽極 (+) ピン 2: LED 陰極 (-)
SPEAK (スピーカーコネクタ) (黄褐色)	ピン 1: VCC (+) ピン 2- ピン 3: NC ピン 4: データ (-)
RES (リセットスイッチ) (緑)	開く: 標準操作 閉じる: ハードウェアシステムのリセット
PW (電源スイッチ) (赤)	開く: 標準操作 閉じる: 電源オン/オフ
MSG (メッセージ LED/ 電源 / スリープ LED) (黄色)	ピン 1: LED 陽極 (+) ピン 2: LED 陰極 (-)
NC (紫)	NC

12) F_AUDIO (正面オーディオコネクタ)

正面オーディオコネクタをご使用になりたい場合、5-6、9-10ジャンパを取り外す必要があります。正面オーディオヘッダを利用するには、シャーシが正面オーディオコネクタを装備している必要があります。また、ケーブルのピン割り当てがマザーボードヘッダのピン割り当てと同じであることを確認してください。ご購入いただいたシャーシが正面オーディオコネクタをサポートしているかどうかは、販売店にお問い合わせください。正面オーディオコネクタまたは背面オーディオコネクタを代わりに使用して音声を再生することも可能です。

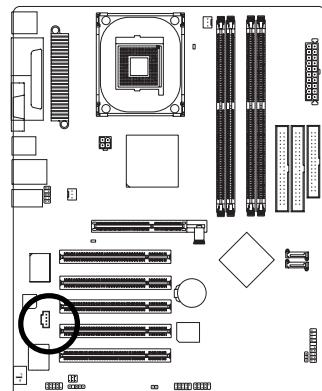


10
9
2
1

ピンの数	定義
1	MIC
2	GND
3	MIC_BIAS
4	電源
5	正面オーディオ (R)
6	背面オーディオ(R)
7	予約済み
8	ピンなし
9	正面オーディオ (L)
10	背面オーディオ(L)

13) CD_IN (CD 入力)

CD-ROMまたはDVD-ROMオーディオ出力をコネクタに接続します。

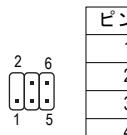
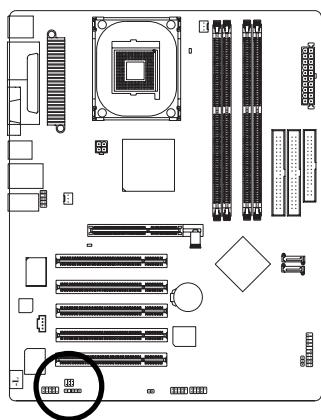


1

ピンの数	定義
1	CD-L
2	GND
3	GND
4	CD-R

14) SPDIF_IO (SPDIF 入出力)

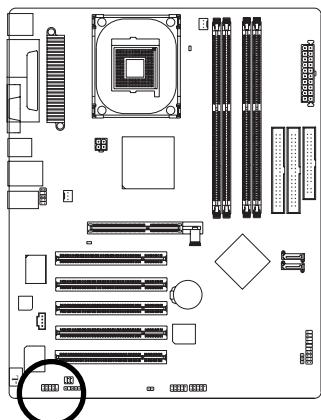
SPDIF出力はデジタルオーディオを外部スピーカーに、または圧縮済みAC3データを外部Dolbyデジタルレコードに提供することができます。この機能は、ステレオシステムがデジタル入力機能を搭載しているときのみ使用してください。お使いの装置がデジタル出力機能を搭載しているときのみ、SPDIF入力機能をご使用ください。
SPDIF_IOコネクタの極性に注意してください。SPDIFケーブルを接続している間、ピン割り当てを確認してください。ケーブルとコネクタを間違って接続すると、デバイスが作動しないか、場合によっては損傷することがあります。オプションのSPDIFケーブルについては、地域代理店にお問い合わせください。



ピンの数	定義
1	VCC
2	ピンなし
3	SPDIF
4	SPDIFI
5	GND
6	GND

15) COMB (COM B コネクタ)

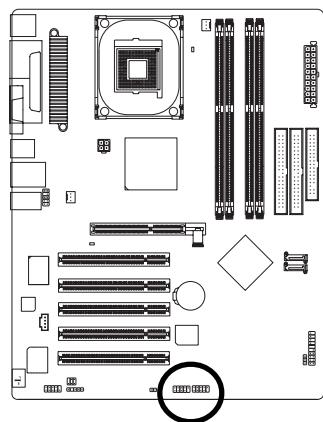
COMコネクタの極性に注意してください。COMケーブルを接続している間、ピン割り当てを確認してください。ケーブルとコネクタを間違って接続すると、デバイスが作動しないか、場合によっては損傷することがあります。オプションのCOMケーブルについては、地域代理店にお問い合わせください。



ピンの数	定義
1	NDCD B-
2	NSIN B
3	NSOUT B
4	NDTR B-
5	GND
6	NDSR B-
7	NRTS B-
8	NCTS B-
9	NRIB B-
10	ピンなし

16) F_USB1 / F_USB2 (正面USBコネクタ)

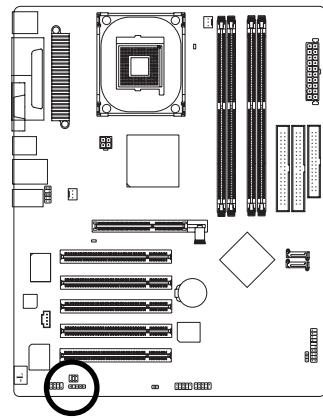
正面USBコネクタの極性に注意してください。正面USBケーブルを接続している間、ピン割り当てを確認してください。ケーブルとコネクタを間違って接続すると、デバイスが作動しない場合によっては損傷することがあります。オプションの正面USBケーブルについては、地域代理店にお問い合わせください。「S3からUSBデバイス呼び起し」は、背面USBポートによってのみサポートされます。



ピンの数	定義
1	電源
2	電源
3	USB DX-
4	USB Dy-
5	USB DX+
6	USB Dy+
7	GND
8	GND
9	ピンなし
10	NC

17) IR

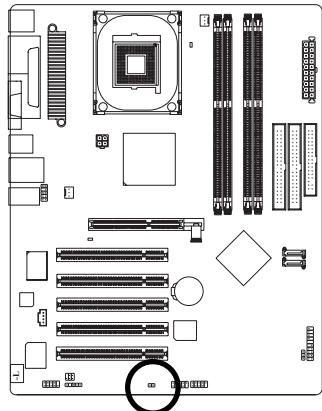
IRを接続している間、IRコネクタの極性に注意してください。オプションのIRデバイスについては、最寄りの代理店にお問い合わせください。



ピンの数	定義
1	VCC
2	ピンなし
3	IR RX
4	GND
5	IR TX

18) CLR_CMOS (クリア CMOS)

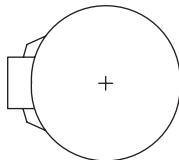
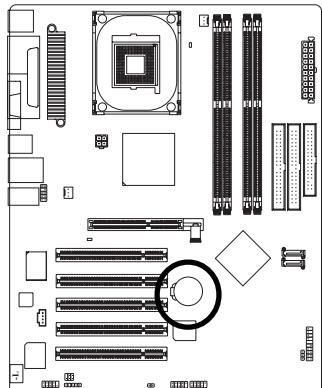
このジャンパによって、CMOS データを消去してそのデフォルト値に戻すことができます。CMOS を消去するには、一時的に 1-2 ピンをショートしてください。このジャンパを間違って使用できないように、デフォルトに「Shunter」は含まれていません。



1 ② 開く: 標準

1 ② ショート: クリア CMOS

19) BAT (バッテリ)



- ❖ バッテリを間違って入れ替えると、爆発の危険があります。
- ❖ 同じタイプのもの、またはメーカーが推奨するタイプと同等のものとのみ交換してください。
- ❖ メーカーの指示に従って、使用済みバッテリを処分してください。

CMOS を消去するには ...

1. コンピュータの電源をオフにし、電源コードを抜きます。
2. バッテリを取り外し、30 秒待ちます。
3. バッテリを再びセットします。
4. 電源コードを差し込み、コンピュータの電源をオンにします。

日本語

第2章 BIOS セットアップ

BIOS(基本入出力システム)にはCMOSセットアップユーティリティが組み込まれており、要求される設定を構成したり、一部のシステム機能をアクティブにします。

CMOSセットアップは、マザーボードのCMOS SRAMに構成を保存します。

電源がオフになるとき、マザーボードのバッテリはCMOS SRAMに必要な電力を供給します。

電源がオンになると、BIOS POST(パワーオンセルフテスト)の間にボタンを押すとCMOS

セットアップ画面が表示されます。「Ctrl+F1」を押すと、BIOSセットアップ画面に入ります。

初めてBIOSをセットアップするとき、BIOSをオリジナルの設定にリセットする必要が生じた

場合に備えて、現在のBIOSをディスクに保存しておくことをお勧めします。新しいBIOSにアッ

プグレードしたい場合、GigabyteのQ-Flashまたは@BIOSユーティリティをご使用になれます。

Q-Flashは、オペレーティングシステムに入らずに、BIOSを素早く簡単に更新またはバックアップします。

@BIOSはWindowsベースのユーティリティで、BIOSをアップグレードする前にDOSを立ち上げずに、インターネットからBIOSを直接ダウンロードして更新します。

コントロールキー

<↑><↓><←><→>	アイテムの選択に移動
<Enter>	アイテムの選択
<Esc>	メインメニューでは、変更を保存せずに終了して CMOSステータスページセットアップメニューに入り、オプションページセットアップメニューでは、現在のページを終了し、メインメニューに戻ります
<Page Up>	数値を多くするか、変更します
<Page Down>	数値を少なくするか、変更します
<F1>	ステータスページセットアップメニューまたはオプションページセットアップメニューでのみ、全般ヘルプを表示します。
<F2>	アイテムのヘルプ
<F5>	オプションページセットアップメニューでのみ、CMOSから前のCMOS値を回復します
<F6>	BIOSデフォルト表からフェールセーフデフォルトCMOS値を読み込みます
<F7>	最適化されたデフォルトを読み込みます
<F8>	Q-Flashユーティリティ
<F9>	システム情報
<F10>	メインメニューの場合のみ、すべてのCMOS変更を保存します

メインメニュー

画面の下部に、反転表示したセットアップ機能のオンライン説明が表示されます。

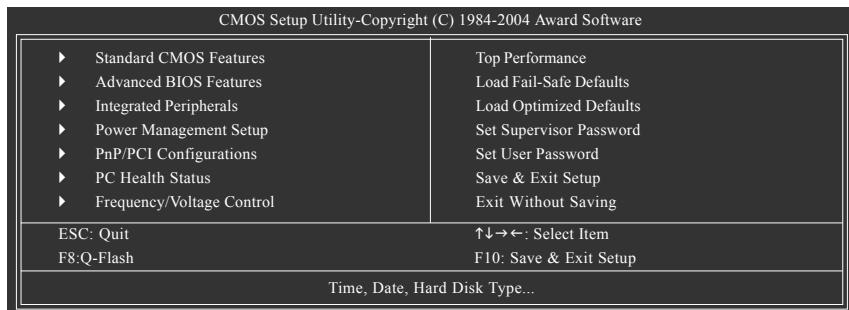
ステータスページセットアップメニュー / オプションページセットアップメニュー

F1を押すと小さなヘルプウィンドウがポップアップ表示され、反転表示したアイテムを使用し選択するための正しいキーを説明します。ヘルプウィンドウを終了するには、<Esc>を押します。

メインメニュー (例: BIOS Ver. : E19)

Award BIOS CMOS セットアップユーティリティを起動すると、メインメニュー(下の図)が画面に表示されます。

矢印キーでアイテムを選択し、<Enter>を押すとアイテムを受け入れるか、サブメニューが表示されます。



 希望する設定が見つからない場合、「Ctrl+F1」を押して非表示になっている詳細設定オプションを検索してください。

■ Standard CMOS Features

このセットアップページには、標準互換BIOSのすべてのアイテムが含まれます。

■ Advanced BIOS Features

このセットアップページには、Awardの特別な拡張機能のすべてのアイテムが含まれます。

■ Integrated Peripherals

このセットアップページには、オンボード周辺機器のすべてのアイテムが含まれます。

■ Power Management Setup

このセットアップページには、グリーン機能のすべてのアイテムが含まれます。

■ PnP/PCI Configuration

このセットアップページには、PCIとPnP ISAリソースのすべての設定が含まれます。

■ PC Health Status

このセットアップページでは、システムが温度、電圧、ファン、速度などを自動検出します。

■ Frequency/Voltage Control

このセットアップページは、CPUのクロックや周波数比をコントロールします。

■ Top Performance

システムのパフォーマンスを最大限に活用したい場合は、「トップパフォーマンス」を「Enabled」と設定してください。

■ Load Fail-Safe Defaults

フェールセーフデフォルトは、システムを安全に設定するシステムパラメータの値を示します。



■ **Load Optimized Defaults**

最適化デフォルトは、システムを最適パフォーマンスで動作すると思われるシステムパラメータの値を示します。

■ **Set Supervisor Password**

パスワードの変更、設定、または無効の設定ができます。この設定により、システムとセットアップ、またはセットアップの際のアクセスを制限できます。

■ **Set User Password**

パスワードの変更、設定、または無効の設定ができます。この設定により、システムへのアクセスを制限できます。

■ **Save & Exit Setup**

CMOS値設定をCMOSに保存し、セットアップを終了します。

■ **Exit Without Saving**

すべてのCMOS値の変更を破棄し、セットアップを終了します。

2-1 Standard CMOS Features

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2004 Award Software Standard CMOS Features		
Date (mm:dd:yy) Time (hh:mm:ss)	Mon, May 3 2004 22:31:24	Item Help Menu Level▶
► IDE Primary Master	[None]	Change the day, month, year
► IDE Primary Slave	[None]	<Week> Sun. to Sat.
► IDE Secondary Master	[None]	<Month> Jan. to Dec.
► IDE Secondary Slave	[None]	<Day> 1 to 31 (or maximum allowed in the month)
Drive A	[1.44M, 3.5"]	<Year> 1999 to 2098
Drive B	[None]	
Holt On	[All, But Keyboard]	
Base Memory	640K	
Extended Memory	255M	
Total Memory	256M	
↑↓→←: Move Enter: Select +/-PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help F5: Previous Values F6: Fail-Save Default F7: Optimized Defaults		

⌚ Date

- 日付形式は<週>、<月>、<日>、<年>です。
 ► Week BIOSによって決定される日から土まで。表示のみです
 ► Month 1月から12月まで。
 ► Day 1から28、29、30、31まで。
 ► Year 1999から2098まで。

⌚ Time

時間形式は<時><分><秒>です。時間は、軍時計での24時間表示です。例: 1 p.m. は13:00:00。

⌚ IDE Primary Master, Slave / IDE Secondary Master, Slave

- IDE HDD Auto-Detection デバイスを自動検出するには、「Enter」を押してこのオプションを選択してください。
 ► IDE Channel 0 Master(Slave) IDEデバイスセットアップ。次の3つの方式のどれかを使用できます。
 Auto POST中に、BIOSがIDEデバイスを自動的に検出します(既定)
 None IDEデバイスが使用されていない場合にこの方式を選択すると、システムは検出ステップを自動的にスキップして、システムはすばやく起動します。
 Manual 正しい設定を手動で入力できます。
 ► Access Mode このアイテムを使用して、ハードドライブのアクセスモードを設定します。次の4つのオプションがあります: CHS/ LBA/ Large/ Auto(既定: Auto)

ハードドライブ情報は、ドライブケースの外側のラベルに表示されています。この情報に基づいて、適切なオプションを入力してください。

- Cylinder シリンダー数
 ► Head ヘッド数
 ► Precomp ディスクドライブが現在の書き込みを変更するシリンダ数
 ► Landing Zone ランディングゾーン
 ► Sector セクタ数

ハードディスクが接続されていない場合、NONEを選択し<Enter>を押してください。



☞ **Drive A / Drive B**

このカテゴリーは、コンピュータに取り付けられたフロッピーディスク ドライブAとBのタイプを識別します。

- » None フロッピードライブなし
- » 360K, 5.25" 5.25インチ PC タイプ標準ドライブ : 360K バイト容量
- » 1.2M, 5.25" 5.25インチ AT タイプ高密度ドライブ : 1.2M バイト容量
(3 モードが Enabled のときは 3.5 インチ)。
- » 720K, 3.5" 3.5インチダブルサイドドライブ、720K バイト容量
- » 1.44M, 3.5" 3.5インチダブルサイドドライブ、1.44M バイト容量
- » 2.88M, 3.5" 3.5インチダブルサイドドライブ、2.88M バイト容量.

☞ **Halt on**

このカテゴリーは、電源オン時にエラーが検出された場合、コンピュータを停止するかどうかを決定します。

- » No Errors エラーが検出された場合でもシステムは起動を停止しません。
- » All Errors BIOSが致命的でないエラーを検出したとき、システムは停止します。
- » All, But Keyboard キーボードエラー以外のエラーで、システムは停止します。
(既定値)
- » All, But Diskette ディスクエラー以外のエラーでシステムは停止します。
- » All, But Disk/Key キーボードエラー、またはディスクエラー以外のエラーでシステムは停止します。

☞ **Memory**

このカテゴリーは表示専用で、BIOS の POST (パワーオンセルフテスト) によって決定されます。

» **Base Memory**

BIOS の POST が、システムに搭載されている基本 (またはコンベンショナル) メモリの容量を検出します。

基本メモリの値は一般的に、マザーボードに搭載されているメモリが 512K の場合は 512K、640K またはそれ以上の場合は 640K と表示します。

» **Extended Memory**

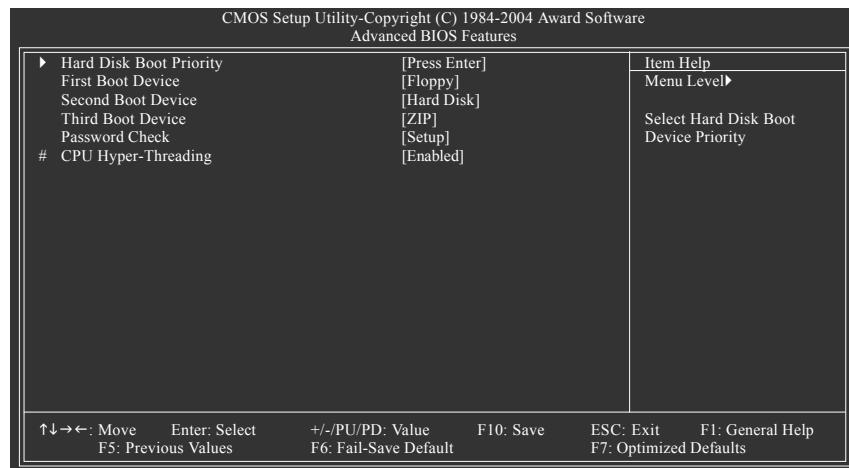
BIOS が POST 中に検出された拡張メモリの容量を割り出します。

これは、CPU のメモリアドレスマップの 1MB 以上に位置するメモリの容量です。

» **Total Memory**

このアイテムは、使用しているメモリサイズを表示します。

2-2 Advanced BIOS Features



NOTE "# HTテクノロジを搭載したIntel® Pentium® 4プロセッサを取り付けると、システムは自動的に検出し表示します。

HARD Disk Boot Priority

オンボード(またはアドオンカード)SCSI、RAIDなどの起動優先シーケンスを選択します。
<↑>または<↓>を使用してデバイスを選択し、<+>を押してリストを上に移動するか、
<->を押して下に移動します。このメニューを終了するには、<ESC>を押します。

FIRST / SECOND / THIRD Boot Device

- » Floppy フロッピーによる起動デバイス優先順位を選択します。
- » LS120 LS120による起動デバイス優先順位を選択します。
- » Hard Disk ハードディスクによる起動デバイス優先順位を選択します。
- » CDROM CDROMによる起動デバイス優先順位を選択します。
- » ZIP ZIPによる起動デバイス優先順位を選択します。
- » USB-FDD USB-FDDによる起動デバイス優先順位を選択します。
- » USB-ZIP USB-ZIPによる起動デバイス優先順位を選択します。
- » USB-CDROM USB-CDROMによる起動デバイス優先順位を選択します。
- » USB-HDD USB-HDDによる起動デバイス優先順位を選択します。
- » LAN LANによる起動デバイス優先順位を選択します。
- » Disabled Disabledによる起動デバイス優先順位を選択します。

Password Check

- » Setup 正しいパスワードを入力しないと、システムは起動しますがセットアップページにアクセスできません。(既定値)
- » System 正しいパスワードを入力しないと、システムも起動せずセットアップページにもアクセスできません。

パスワードの設定を取り消したい場合、ENTER を押し、[SETUP] を空にしてください。



⌚ CPU Hyper-Threading

- ▶ Enabled CPU ハイパースレッディング機能を有効にします。この機能は、マルチプロセッサモードをサポートするオペレーティングシステムでのみ機能することにご注意ください。(既定値)
- ▶ Disabled CPU ハイパースレッディングを無効にします。

2-3 Integrated Peripherals

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2004 Award Software Integrated Peripherals		
On-Chip Primary PCI IDE On-Chip Secondary PCI IDE AC97 Audio On-Chip SATA On-Chip SATA Class ID SATA Hotplug Support USB 2.0 Controller USB Controller USB Keyboard Support USB Mouse Support Onboard H/W LAN (*) Onboard LAN Boot ROM (*) Onboard Serial Port 1 Onboard Serial Port 2 UART Mode Select x UR2 Duplex Mode Onboard Parallel Port Parallel Port Mode	[Enabled] [Enabled] [Auto] [Enabled] [Enabled as IDE] [Enabled] [Enabled] [Enabled] [Disabled] [Disabled] [Enabled] [Disabled] [3F8/IRQ4] [2F8/IRQ3] [Normal] [Half] [378/IRQ7] [SPP]	Item Help Menu Level▶

⌚ On-Chip Primary PCI IDE

- ▶ Enabled オンボードの最初のチャンネル IDE ポートを有効にします。(既定値)
- ▶ Disabled オンボードの最初のチャンネル IDE ポートを無効にします。

⌚ On-Chip Secondary PCI IDE

- ▶ Enabled オンボードの2番目のチャンネル IDE ポートを有効にします。(既定値)
- ▶ Disabled オンボードの2番目のチャンネル IDE ポートを無効にします。

⌚ AC97 Audio

- ▶ Auto オンボード AC'97 オーディオ機能を有効にします。(既定値)
- ▶ Disabled この機能を無効にします。.

⌚ On-Chip SATA

- ▶ Enabled オンチップ SATA 機能を有効にします。(既定値)
- ▶ Disabled オンチップ SATA 機能を無効にします。

⌚ On-Chip SATA Class ID

- ▶ Enabled as IDE IDE として SiS シリアル ATA チップ機能を選択します。(既定値)
- ▶ Enabled as RAID RAID として SiS シリアル ATA チップ機能を選択します。

(*) GA-8TRX330-L の場合のみ。



- ☞ **SATA Hotplug Support**
 - ▶ Enabled SATA ホットプラグ機能を有効にします。(既定値)
 - ▶ Disabled この機能を無効にします。
- ☞ **USB 2.0 Controller**
 - オンボードUSB 2.0機能を使用しない場合、この機能を無効にします。
 - ▶ Enabled USB 2.0 コントローラを有効にします。(既定値)
 - ▶ Disabled USB 2.0コントローラを無効にします。
- ☞ **USB Controller**
 - ▶ Enabled USB コントローラを有効にします。(既定値)
 - ▶ Disabled USBコントローラを無効にします。
- ☞ **USB Keyboard Support**
 - ▶ Enabled USBキーボードのサポートを有効にします。
 - ▶ Disabled USB キーボードのサポートを無効にします。(既定値)
- ☞ **USB Mouse Support**
 - ▶ Enabled USBマウスのサポートを有効にします。
 - ▶ Disabled USB マウスのサポートを無効にします。(既定値)
- ☞ **Onboard H/W LAN (*)**
 - ▶ Enabled オンボード H/W LAN 機能を有効にします。(既定値)
 - ▶ Disabled この機能を無効にします。
- ☞ **Onboard LAN Boot ROM (*)**
 - この機能は、オンボードLANチップのブートROMを呼び起すかどうかを決定します。
 - ▶ Enabled この機能を有効にします。
 - ▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)
- ☞ **Onboard Serial Port 1**
 - ▶ Auto BIOS は自動的にポート1アドレスをセットアップします。
 - ▶ 3F8/IRQ4 オンボードシリアルポート1を有効にし、アドレスを3F8とします(既定値)。
 - ▶ 2F8/IRQ3 オンボードシリアルポート1を有効にし、アドレスを2F8とします。
 - ▶ 3E8/IRQ4 オンボードシリアルポート1を有効にし、アドレスを3E8とします。
 - ▶ 2E8/IRQ3 オンボードシリアルポート1を有効にし、アドレスを2E8とします。
 - ▶ Disabled オンボードシリアルポート1を無効にします。
- ☞ **Onboard Serial Port 2**
 - ▶ Auto BIOS は自動的にポート1アドレスをセットアップします。
 - ▶ 3F8/IRQ4 オンボードシリアルポート2を有効にし、アドレスを3F8とします(既定値)。
 - ▶ 2F8/IRQ3 オンボードシリアルポート2を有効にし、アドレスを2F8とします。
 - ▶ 3E8/IRQ4 オンボードシリアルポート2を有効にし、アドレスを3E8とします。
 - ▶ 2E8/IRQ3 オンボードシリアルポート2を有効にし、アドレスを2E8とします。
 - ▶ Disabled オンボードシリアルポート2を無効にします。

(*) GA-8TRX330-Lの場合のみ。



⌚ **UART Mode Select**

このアイテムは、オンボードI/Oチップの赤外線(IR)機能を決定します。

- ▶ Normal オンボードI/OチップUARTを標準モードに設定します。(既定値)
- ▶ ASKIR オンボードI/OチップUARTをASKIRモードに設定します。
- ▶ IrDA オンボードI/OチップUARTをIrDAモードに設定します。
- ▶ SCR オンボードI/OチップUARTをSCRモードに設定します。

⌚ **UR2 Duplex Mode**

この機能は、IRモードを選択します。

この機能は、「UART Mode Select」がNormalに設定されていないときに使用できます。

- ▶ Half IR機能デュプレックスハーフ。(既定値)
- ▶ Full IR機能デュプレックスフル。

⌚ **Onboard Parallel port**

- ▶ Disabled オンボードLPTポートを無効にします。
- ▶ 378/IRQ7 オンボードLPTポートを有効、IRQ7を使用して、アドレスを378に設定します。(既定値)
- ▶ 278/IRQ5 オンボードLPTポートを有効、IRQ5を使用して、アドレスを278に設定します。
- ▶ 3BC/IRQ7 オンボードLPTポートを有効、IRQ7を使用して、アドレスを3BCに設定します。

⌚ **Parallel Port Mode**

- ▶ SPP パラレルポートを標準パラレルポートに設定します。(既定値)
- ▶ EPP パラレルポートを拡張パラレルポートに設定します。
- ▶ ECP パラレルポートを拡張機能ポートに設定します。
- ▶ ECP+EPP パラレルポートをECP & EPPモードに設定します。



2-4 Power Management Setup

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2004 Award Software Power Management Setup		
ACPI Suspend Type	[S1(POS)]	Item Help
Power LED in S1 state	[Blinking]	Menu Level▶
Off by Power button	[Instant-Off]	
PME/Ring Wake Up	[Enabled]	
USB Device Wake-Up From S3	[Enabled]	
Power On By Mouse	[Disabled]	
Power On By Keyboard	[Disabled]	
x KB Power ON Password	Enter	
AC BACK Function	[Soft-Off]	
Resume by Alarm	[Disabled]	
x Date (of Month)	Everyday	
x Resume Time (hh:mm:ss)	0 0 0	
↑↓→←: Move Enter: Select +/-PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help F5: Previous Values F6: Fail-Save Default F7: Optimized Defaults		

☞ ACPI Suspend Type

- » S1(POS) ACPI サスペンドタイプを S1 に設定します。(既定値)
- » S3(STR) ACPIサスペンドタイプをS3に設定します。

☞ Power LED in S1 state

- » Blinking スタンバイモード (S1) で、電源 LED が点滅します。(既定値)
- » Dual/OFF スタンバイモード (S1) で：
 - a. シングルカラーLEDを使用している場合、電源LEDがオフになります。
 - b. デュアルカラーLEDを使用している場合、電源LEDは他のカラーに変わります。

☞ Off by Power button

- » Instant-off 電源ボタンを押すとすぐに電源がオフになります。(既定値)
- » Delay 4 Sec. このボタンを4秒間押すと、電源がオフになります。4秒以下の場合はサスペンドモードに入ります。

☞ PME/Ring Wake Up

- » Enabled PME/ リング呼び起こし機能を有効にします。(既定値)
- » Disabled この機能を無効にします。

☞ USB Device Wake-up From S3

- » Enabled S3 から USB デバイス呼び起こしを有効にします。(既定値)
- » Disabled S3からUSBデバイス呼び起こしを無効にします。

☞ Power On By Mouse

- » Disabled この機能を無効にします。(既定値)
- » Double Click PS/2マウスの左ボタンをダブルクリックすると、システムの電源がオンになります。



⌚ Power On By Keyboard

- ▶ Password パスワードを入力し(1-5文字)、Enterを押してキーボードの電源オンパスワードを設定します。
- ▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)
- ▶ Keyboard 98 お使いのキーボードが「POWER Key」ボタンを搭載していれば、このキーを押すことでシステムの電源をオンにできます。

⌚ KB Power ON Password

- ▶ Enter パスワードを入力し(1-5文字)、Enterを押してキーボードの電源オンパスワードを設定します。

⌚ AC BACK Function

- ▶ Memory システムの電源オンは、ACが切断される前のステータスに依存します。
- ▶ Soft-Off ACが回復すると、常にオフの状態になります。(既定値)
- ▶ Full-On ACが回復すると、システムは常にオンの状態になります。

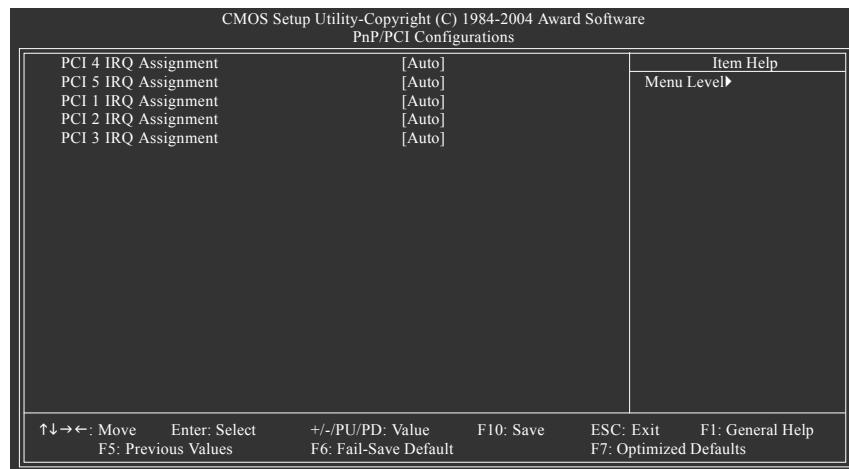
⌚ Resume by Alarm

「Resume by Alarm」アイテムを有効に設定すると、日付や時間でシステムの電源をオンにすることができます。

- ▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)
 - ▶ Enabled この機能を有効にしてシステムの電源をオンにします。
- RTC Alarm Lead To Power Onが使用可能の時は、以下のように設定します。
- Date (of Month): 毎日、1~31
Resume Time (hh: mm: ss): (0~23) : (0~59) : (0~59)



2-5 PnP/PCI Configurations



⌚ PCI 4 IRQ Assignment

- ▶ Auto
 - ▶ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15
- IRQ を PCI 4 に自動的に割り当てます (既定値)。
IRQ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 を PCI 4 に設定します。

⌚ PCI 5 IRQ Assignment

- ▶ Auto
 - ▶ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15
- IRQ を PCI 5 に自動的に割り当てます (既定値)。
IRQ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 を PCI 5 に設定します。

⌚ PCI 1 IRQ Assignment

- ▶ Auto
 - ▶ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15
- IRQ を PCI 1 に自動的に割り当てます (既定値)。
IRQ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 を PCI 1 に設定します。

⌚ PCI 2 IRQ Assignment

- ▶ Auto
 - ▶ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15
- IRQ を PCI 2 に自動的に割り当てます (既定値)。
IRQ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 を PCI 2 に設定します。

⌚ PCI 3 IRQ Assignment

- ▶ Auto
 - ▶ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15
- IRQ を PCI 3 に自動的に割り当てます (既定値)。
IRQ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 を PCI 3 に設定します。



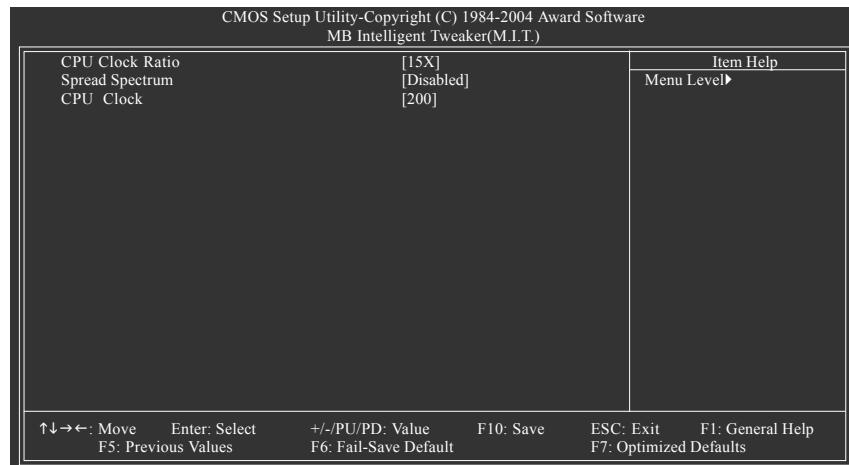
2-6 PC Health Status

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2004 Award Software		
PC Health Status		
Vcore	OK	Item Help▶
+2.5V	OK	Menu Level▶
+3.3V	OK	
+12V	OK	
Current CPU Temperature	45°C	
Current CPU FAN Speed	4821 RPM	
Current SYSTEM FAN Speed	0 RPM	
CPU Warning Temperature	[Disabled]	
CPU FAN Fail Warning	[Disabled]	
SYSTEM FAN Fail Warning	[Disabled]	

- ⌚ **Current Voltage(V)** Vcore / +2.5V / +3.3V / +12V
 - ▶ リストの電圧ステータスを自動検出します。
- ⌚ **Current CPU Temperature**
 - ▶ CPU温度を自動的に検出します。
- ⌚ **Current CPU/SYSTEM FAN Speed (RPM)**
 - ▶ CPU/システムファン速度のステータスを自動的に検出します。
- ⌚ **CPU Warning Temperature**
 - ▶ 60°C / 140°F 60°C / 140°FでCPUの温度をモニタします。
 - ▶ 70°C / 158°F 70°C / 158°FでCPUの温度をモニタします。
 - ▶ 80°C / 176°F 80°C / 176°FでCPUの温度をモニタします。
 - ▶ 90°C / 194°F 90°C / 194°FでCPUの温度をモニタします。
 - ▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)
- ⌚ **CPU/SYSTEM FAN Fail Warning**
 - ▶ Disabled ファン警告機能を無効にします。(既定値)
 - ▶ Enabled ファン警告機能を有効にします。



2-7 Frequency/Voltage Control



これらの機能を間違って使用すると、システム故障の原因となります。パワーユーザーのみ使用してください。

CPU Clock Ratio

このセットアップオプションは、CPU検出により自動的に割り当てられます。
CPU速度が変更できない場合のみ、オプションは「Locked」を表示し読み取り専用となります。

Spread Spectrum

- » Disabled スペクトラム拡散機能を無効にします。(既定値)
- » Enabled この機能を有効にします。

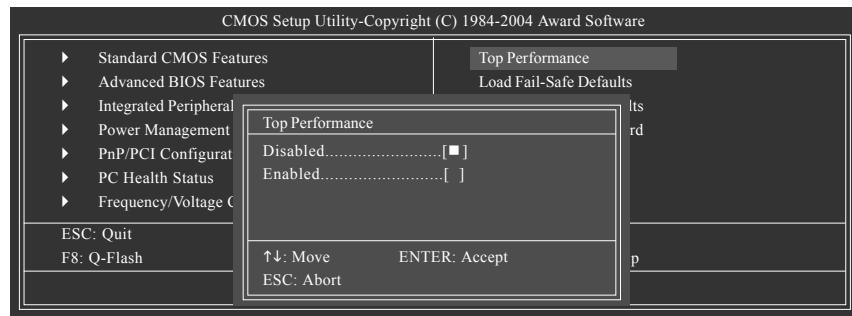
CPU Clock

- FSB(フロントサイドバス)周波数 =400MHz の場合、
- » CPUクロックを100~132に設定します。
- FSB(フロントサイドバス)周波数 =533MHz の場合、
- » CPUクロックを133~165に設定します。
- FSB(フロントサイドバス)周波数 =800MHz の場合、
- » CPUクロックを200~232に設定します。

これらの機能を間違って使用すると、システム故障の原因となります。パワーユーザーのみ使用してください!



2-8 Top Performance



☞ Top Performance

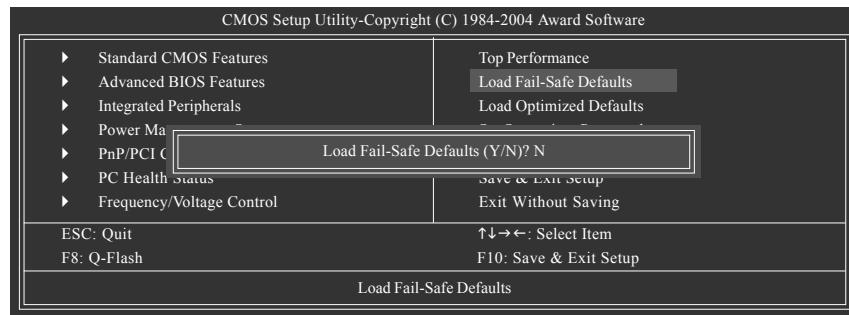
システムのパフォーマンスを最大限に活用したい場合は、「Top Performance」を「Enabled」と設定してください。

- » Disabled この機能を無効にします。(既定値)
- » Enabled トップパフォーマンス機能を有効にします。



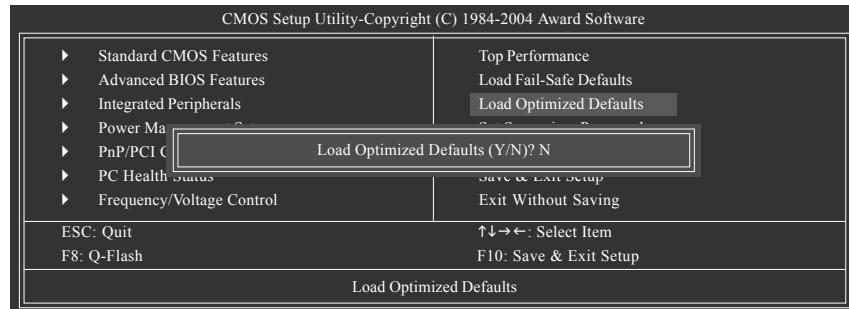
「Top Performance」はH/W作動速度を上げます。システム構成(H/WコンポーネントとOS)が異なると、結果に影響を与えます。例えば、同じH/W構成がWindows XPで正しく作動しなくても、Windows NTではスムーズに作動することもあります。従って、システムが十分に機能しない場合、信頼性と安定性の問題がしばしば発生するため、上で触れた問題を避けるためにこのオプションを無効にするようにお勧めします。

2-9 Load Fail-Safe Defaults



フェールセーフデフォルトは、最低限のシステムパフォーマンスにもっとも適切なシステムパラメータ値を含んでいます。

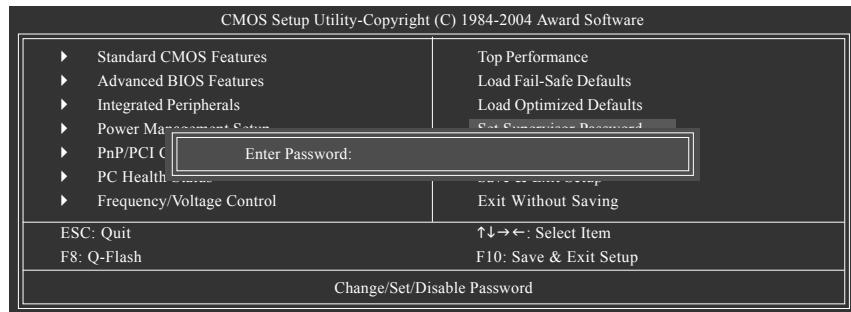
2-10 Load Optimized Defaults



このフィールドを選択すると、システムがBIOSとチップセット機能の初期設定を自動的に検出し、ロードします。



2-11 Set Supervisor/User Password



このフィールドを選択すると、システムがBIOSとチップセット機能の初期設定を自動的に検出し、ロードします。

本機能を選択すると、画面中央に次のメッセージが表示され、パスワードを作成することができます。

8文字以内でパスワードを入力し、<Enter>を押します。パスワードを確認するように求められます。

パスワードを再入力し、<Enter>を押します。または、<Esc>を押して選択を破棄し、パスワードを設定しないこともできます。

パスワードを無効に刷るには、パスワード入力画面で<Enter>を押します。「PASSWORD DISABLED」という確認画面が表示され、パスワードが無効になります。これで、システム起動も、セットアップに入ることも自由にできます。

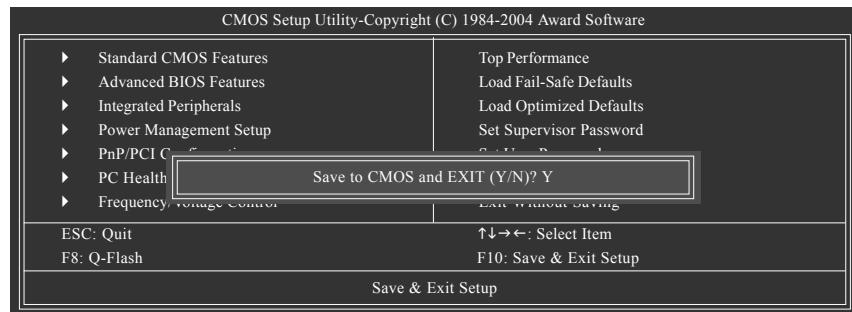
BIOSセットアッププログラムでは、2種類のパスワード設定ができます。

SUPERVISOR PASSWORD と USER PASSWORD です。無効の場合、だれでもすべてのBIOSセットアッププログラム機能にアクセスできます。有効の場合、BIOSセットアッププログラムの全項目にアクセスするには管理者パスワードが要求され、基本的な項目のみにアクセスするにはユーザーパスワードが必要になります。

拡張機能メニューの「System」で「Password Check」を選択すると、システムを再起動し、セットアップメニューに入るたびにパスワードの入力が必要になります。

拡張BIOS機能メニューの「Setup」で「Password Check」を選択すると、セットアップに入る際のみパスワードの入力が必要になります。

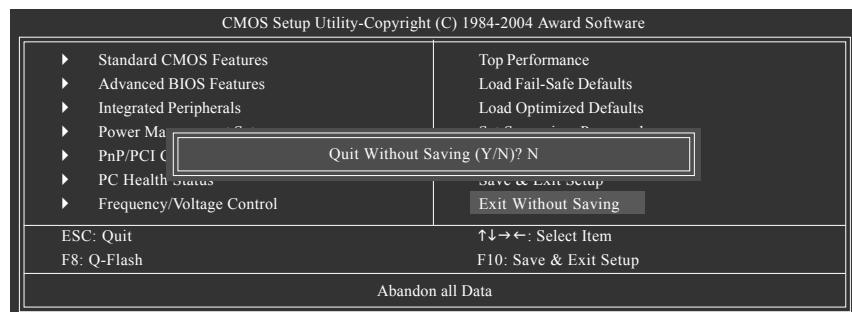
2-12 Save & Exit Setup



セットアップユーティリティを終了し、設定値をRTC CMOSに保存する場合は、「Y」を入力します。

セットアップユーティリティに戻るには、「N」を入力します。

2-13 Exit Without Saving



設定値をRTC CMOSに保存せずにセットアップユーティリティを終了する場合は、「Y」を入力します。

セットアップユーティリティに戻るには、「N」を入力します。

日本語

日本語

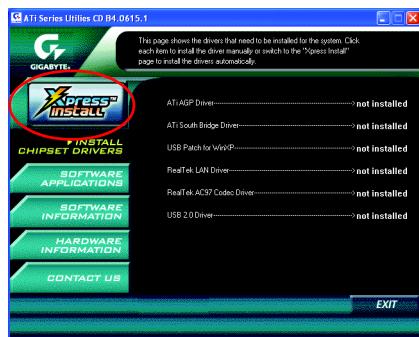
第3章 ドライバのインストール



下の図は、Windows XPで表示されます。マザーボードに付属するドライバCDタイトルをCD-ROMに挿入すると、ドライバCDタイトルが自動実行され、インストールガイドが表示されます。自動実行されない場合、「マイコンピュータ」のCD-ROMデバイスアイコンをダブルクリックし、setup.exeを実行してください。

3-1 Install Chipset Drivers

このページでは、システムにインストールする必要のあるドライバを表示します。各アイテムをクリックしてドライバを手動でインストールするか、 りりてラにド替イバを自動的にインストールしてください。

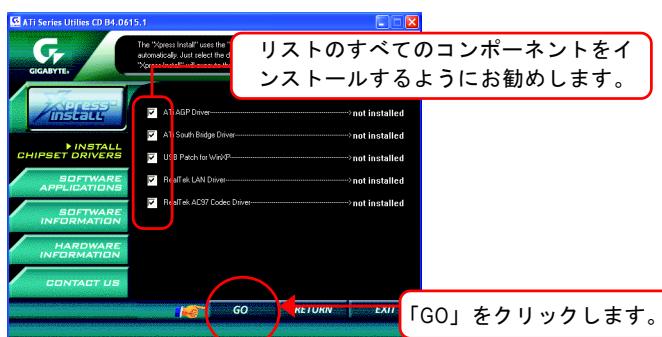


デバイスドライバには、システムを自動的に再起動するものもあります。その場合は、システムを再起動した後、「Xpress Install」が残りのドライバを引き続きインストールします。

ドライバのインストール後システムは自動的に再起動し、その後、他のアプリケーションをインストールできます。

「Xpress Install」は「Click and Go」テクノロジを使用して、ドライバを自動的にインストールします。希望するドライバを選択し、「GO」ボタンをクリックしてください。

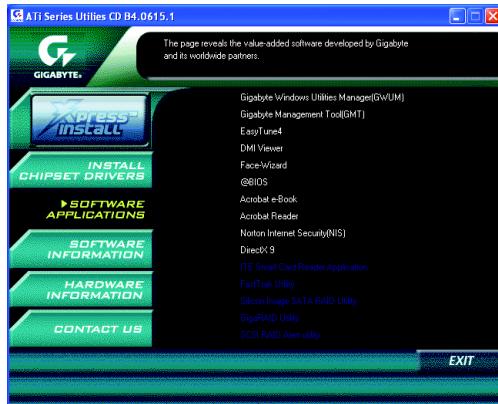
がユーザーに代わってインストールを自動的に実行します。



Windows XPオペレーティングシステムでUSB2.0ドライバをサポートするには、Windows Service Packを使用してください。Windows Service Packのインストール後、「Device Manager」 - 「Universal Serial Bus controller」の中に「?」マークが表示されます。このマークを削除し、システムを再起動してください(システムは正しいUSB2.0ドライバを自動的に検出します)。

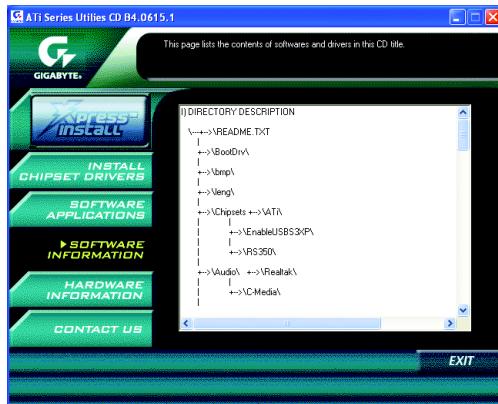
3-2 Software Applications

このページは、Gigabyte が開発したすべてのツールと一部の無償ソフトウェアを表示します。



3-3 Driver CD Information

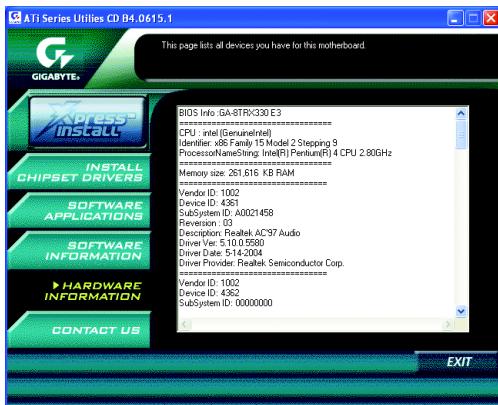
このページは、このCDタイトルのソフトウェアとドライバの内容をリストアップします。





3-4 Hardware Information

このページは、このマザーボード用に取り付けたすべてのデバイスをリストアップします。



3-5 Contact Us

詳細については、最後のページをご覧ください。



日本語

第4章 付録

4-1 ユニークなソフトウェアユーティリティ

4-1-1 Xpress Recovery の概要



Xpress Recovery とは?

Xpress Recoveryは、OSパーティションをバックアップし回復するため使用されるユーティリティです。ハードドライブが正しく作動しない場合、ユーザーはドライバをそのオリジナルの状態に回復できます。



1. FAT16、FAT32、NTFS形式をサポート
2. IDE1マスターに接続する必要があります
3. 1つのOSのみインストール可能
4. HPAをサポートするIDEハードディスクで使用する必要があります
5. 最初のパーティションは起動パーティションとして設定する必要があります
起動パーティションをバックアップするとき、そのサイズを変更しないでください
6. Xpress Recoveryは、起動マネージャをNTFS形式に戻すためにGhostを使用するときには推奨いたします

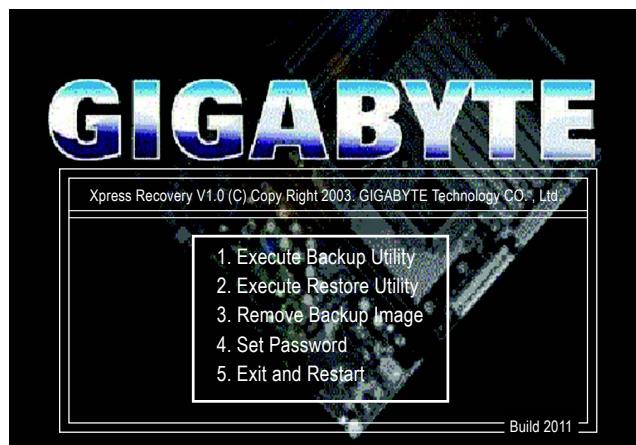
Xpress Recovery の使用法

1. CD-ROM から起動します (BMP モード)

BIOSメニューに入って、「Advanced BIOS」を選択し、CD-ROMから起動に設定します。付属のドライバCDをCD ドライブに挿入し、BIOSメニューを保存して終了します。コンピュータが再起動したら、画面の左下に「Boot from CD:」というメッセージが表示されます。このメッセージが表示されたら、どれかのキーを押して Xpress Recoveryに入ります。このステップを完了すると、次に Xpress Recovery にアクセスするとき、コンピュータの電源を入れている間にF9キーを押している場合と同じように機能します。



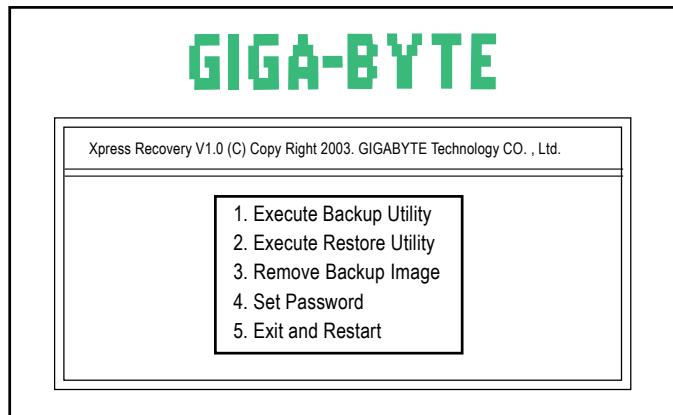
CD から起動 :



2. コンピュータの電源をオンにしている間にF9を押します。(テキストモード)
コンピュータの電源をオンにしている間にF9を押します。



Xpress Recovery 用 F9



1. CD-ROMから起動してすでに Xpress Recovery に入っている場合、F9キーを押すことでそれ以後は Xpress Recovery に入ることができます。
2. ドライブの読み取り/書き込み速度と同様、システムの記憶容量はバックアップ速度に影響を与えます。
3. OS と必要なすべてのドライバやソフトウェアのインストールが完了したら、直ちに Xpress Recovery をインストールすることをお勧めします。



1. Execute Backup Utility:

- ✓ **B を押すとシステムをバックアップし、Esc を押すと終了します。**
バックアップユーティリティはシステムを自動的にスキャンし、ハードドライブにバックアップ画像としてデータをバックアップします。
 **CAUTION** コンピュータの電源をオンにしている間にF9キーを押しても、すべてのシステムがXpress Recoveryにアクセスできるとは限りません。アクセスできない場合、CD-ROMから起動する方式を使用してXpress Recoveryに入ってください。

2. Execute Restore Utility:

- ✓ **このプログラムは、システムを出荷時設定に戻します。**
R を押すとシステムは出荷時設定に復元され、Esc を押すと終了します。
バックアップ画像をオリジナルの状態に復元します。

3. Remove Backup Image:

- ✓ **バックアップ画像を削除します。よろしいですか? (Y/N)**
バックアップ画像を削除します。

4. Set Password:

- ✓ **4-16 文字の長さのパスワード (a-z または 0-9) を入力するか、Esc を押して終了します。**
パスワードを設定してXpress Recoveryに入ると、ハードディスクのデータを保護できます。いったんパスワードを設定すると、次にシステムを起動するときだけでなく、Xpress Recoveryに入るときにもパスワードを要求されます。パスワード入力の必要性を取り除きたい場合、「New Password/Confirm Password」の下で「Set Password」を選択し、何も入力されていないことを確認してから「Enter」を押すとパスワードの要求が取り除かれます。

5. Exit and Restart:

コンピュータを終了して、再起動します。

4-1-2 フラッシュ BIOS 方式の概要



方式 1: Q-Flash™ ユーティリティ
Q-Flash™ は Flash ROM に埋め込まれた BIOS フラッシュユーティリティです。このユーティリティでは、BIOS を更新するときにのみ BIOS メニューを起動する必要があります。**Q-Flash™** は、DOS や Windows のユーティリティをいっさい使わずに BIOS をフラッシュします。**Q-Flash™** は BIOS に含まれているため、複雑な指示やオペレーティングシステムに翻弄されることはありません。

CAUTION BIOS の更新には危険が伴うため、細心の注意を払ってください。BIOS を更新する際に間違った操作のためにシステムが破損しても、Gigabyte Technology Co., Ltd では責任を負うことはありません。

始める前に :

Q-Flash™ ユーティリティを搭載した BIOS の更新を開始する前に、まず以下のステップに従ってください。

1. Gigabyte の Web サイトから、マザーボード用の最新 BIOS をダウンロードします。
2. ダウンロードした BIOS ファイルを解凍し、BIOS ファイル (.Fxx というモデル名を持つファイル。例えば、8KNXPU.Fba) をフロッピーディスクに保存します。
3. PC を起動し、**Del** を押して BIOS メニューに入ります。

以下の BIOS アップグレードガイドは、2つの部分に分けられます。

マザーボードにデュアル BIOS デュアルが搭載されている場合、**パート 1**を参照してください。

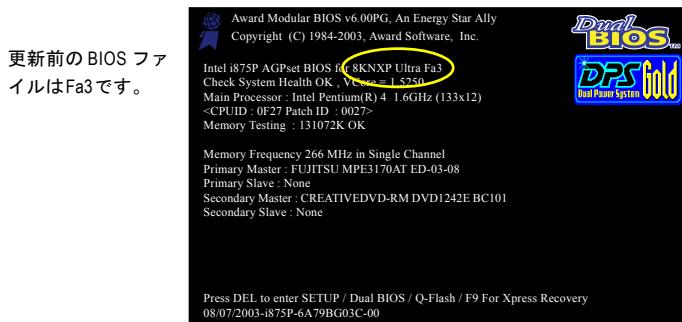
マザーボードにシングル BIOS デュアルが搭載されている場合、**パート 2**を参照してください。

パート 1 :

デュアル BIOS マザーボードの Q-Flash™ ユーティリティで BIOS を更新する。

一部の Gigabyte マザーボードには、デュアル BIOS が搭載されています。Q-Flash と Dual BIOS をサポートするマザーボードの BIOS メニューで、Q-Flash ユーティリティと Dual BIOS ユーティリティは同じ画面に結合されます。本項では、Q-Flash ユーティリティの使用方法のみを説明します。

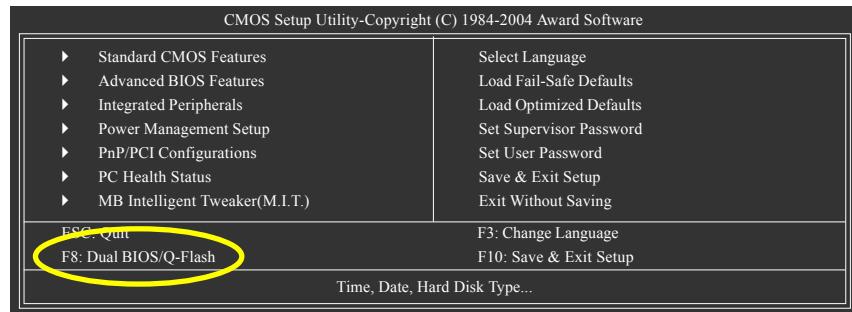
以下の項では、GA-8KNXP Ultra を例に取って、BIOS を古いバージョンから新しいバージョンにフラッシュする方法を示します。例えば、Fa3 から Fba に。





Q-Flash™ ユーティリティに入る :

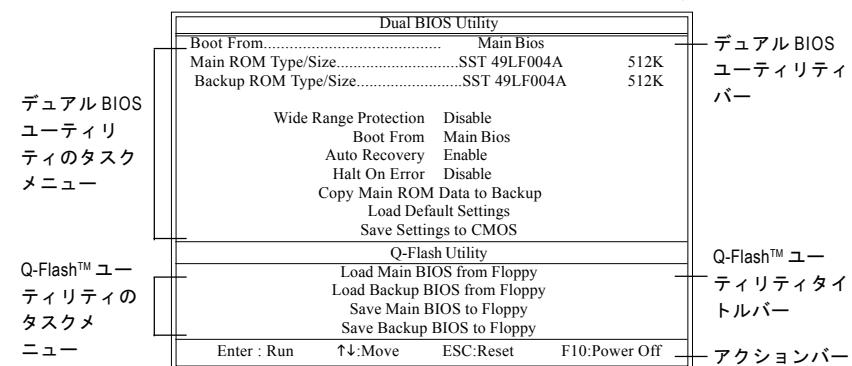
ステップ1: Q-Flashユーティリティを使用するには、起動画面で Del を押して BIOS メニューに入る必要があります。



ステップ2: キーボードで F8 ボタンを次に Y ボタンを押して、デュアル BIOS/Q-Flash ユーティリティに入ります。

Q-Flash™ / Dual BIOS ユーティリティ画面を調べる

Q-Flash / Dual BIOS ユーティリティ画面は、次の主要なコンポーネントから構成されています。



デュアル BIOS ユーティリティのタスクメニュー :

BIOS ROM タイプに関する情報を示す、8つのタスクと2つのアイテムの名前を含みます。タスクをブロックしキーボードの Enter キーを押すと、タスクの実行が有効になります。

Q-Flash ユーティリティのタスクメニュー :

4つのタスクの名前を含みます。タスクをブロックしキーボードの Enter キーを押すと、タスクの実行が有効になります。

アクションバー :

Q-Flash / デュアル BIOS ユーティリティを操作するために必要な4つのアクション名を含みます。キーボードに記載されたボタンを押してこれらのアクションを実行します。

Q-Flash™ ユーティリティを使用する :

本項では、Q-Flashユーティリティを使用してBIOSを更新する方法を示します。上の「Before you begin」で説明したように、マザーボード用のBIOSファイルを含むフロッピーディスクを準備し、コンピュータに挿入する必要があります。システムにフロッピーディスクをすでに挿入してQ-Flashユーティリティを起動している場合、以下のステップに従ってBIOSをフラッシュしてください。

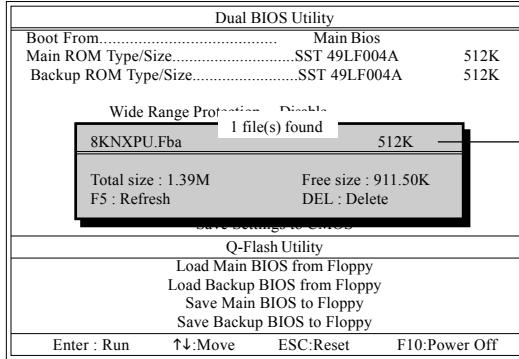
ステップ :

1. キーボードの矢印ボタンを押し明るいバーを Q-Flash メニューの「Load Main BIOS from Floppy」アイテムに移動し、Enterボタンを押します。
ボックスがポップアップ表示され、フロッピーディスクにダウンロードしておいたBIOSファイルを示します。

 バックアップのために現在のBIOSを保存したい場合、「Save Main BIOS to Floppy」アイテムでステップ1を開始できます。

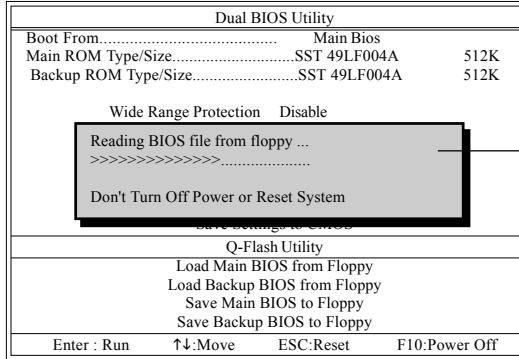
2. フラッシュしたいBIOSファイルに移動し、Enterを押します。
この例で、フロッピーディスクには1つのBIOSファイルのみしかダウンロードしないため、1つのBIOSファイル、8KNXPU.Fbaだけが表示されています。

 マザーボード用の正しいBIOSファイルを使用していることを再度確認してください。



フロッピーディスクのBIOSファイル。

Enterを押すと、フロッピーディスクからBIOSファイルを読み込むための進捗状況が表示されます。



 CAUTION
この段階でコンピュータの電源をオフにしたり、リセットしないでください。

BIOSファイルを読み込むと、「Are you sure to update BIOS?」と尋ねる確認ダイアログボックスが表示されます。

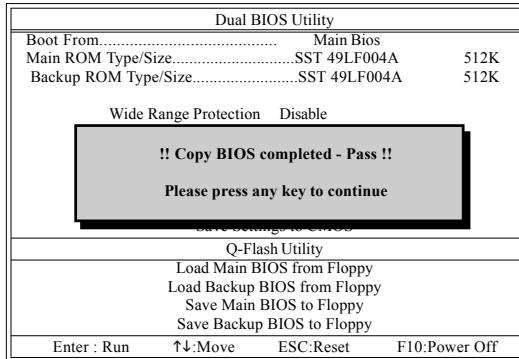


3. BIOSの更新を決めたら、キーボードのYボタンを押します。
BIOSの更新が始まります。BIOS更新の進捗状況が同時に表示されます。



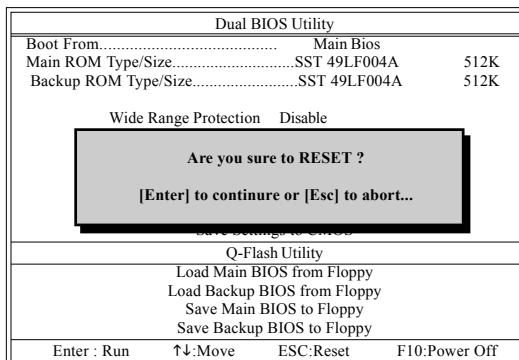
BIOSの更新が始まったらフロッピーディスクを取り出さないでください。

4. BIOSの更新手順が完了した後、どれかのキーを押すとQ-Flashメニューに戻ります。



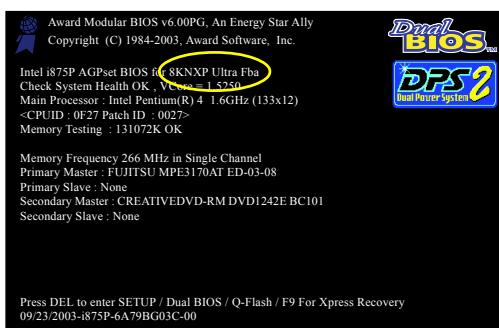
ステップ1から4を
繰り返して、バッ
クアップBIOSをフ
ラッシュすること
もできます。

5. Escを次にYボタンを押してQ-Flashユーティリティを終了します。Q-Flashを終了すると、
コンピュータが自動的に再起動します。

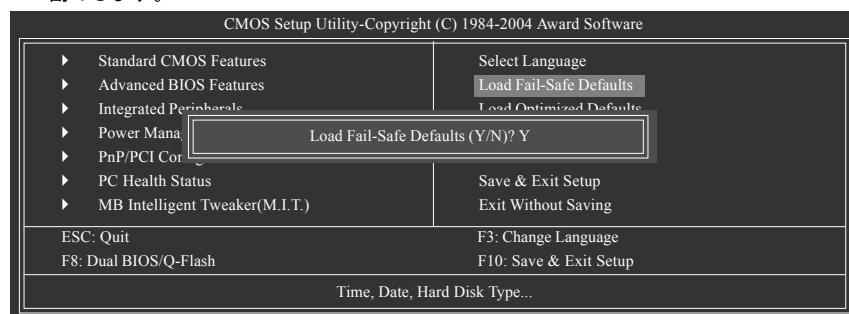


システムが再起動した後、起動画面のBIOSバージョンはフラッシュしたバージョンに
なります。

更新後、BIOS
ファイルはFab
になります。

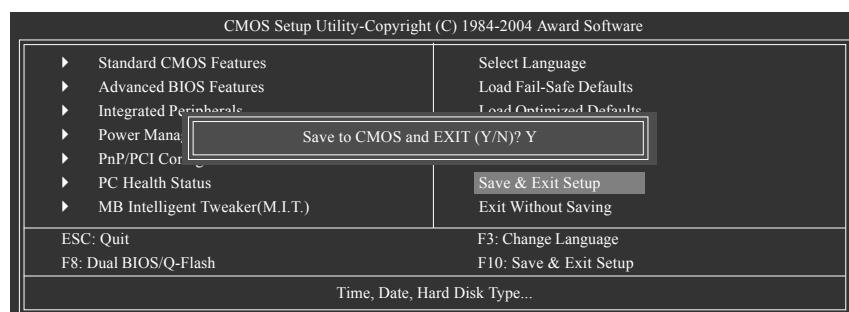


6. システムが再起動した後、Delを押すとBIOSメニューに入ります。BIOSメニューに入ったら、Load Fail-Safe Defaultsアイテムに移動し、Enterを押してBIOSのフェールセーフデフォルトをロードします。通常、BIOSの更新が完了するとシステムはすべてのデバイスを再検出します。従って、BIOSの初期設定値を再ロードすることをお勧めします。



キーボードのYを押して初期設定値をロードします。

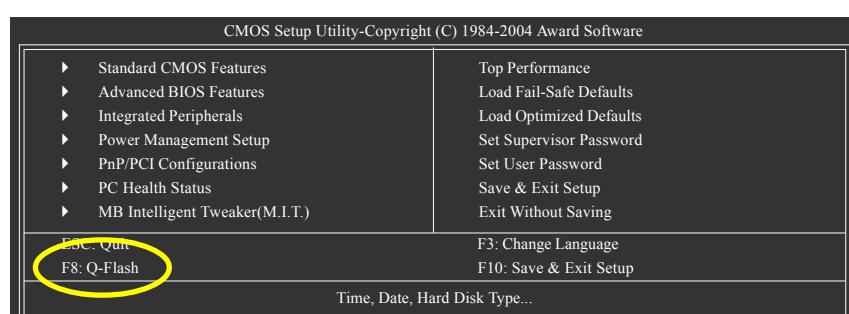
7. Save & Exit Setup アイテムを選択し、設定をCMOSに保存し、BIOSメニューを終了します。BIOSメニューを終了すると、システムは再起動します。手順は完了しました。



キーボードのYを押し、保存して終了します。

パート 2： シングルBIOSマザーボードのQ-Flash™ユーティリティでBIOSを更新する。

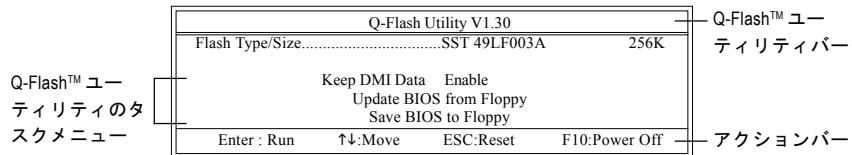
本項では、シングルBIOSマザーボードのユーザーに、Q-Flash™ユーティリティを使用してBIOSを更新する方法を示します。





Q-Flash™ ユーティリティ画面を調べる

Q-Flash BIOS ユーティリティ画面は、次の主要なコンポーネントから構成されています。



Q-Flash ユーティリティのタスクメニュー :

3つのタスクの名前を含みます。タスクをロックしキーボードのEnterキーを押すと、タスクの実行が有効になります。

アクションバー :

Q-Flash ユーティリティを操作するために必要な4つのアクション名を含みます。キーボードに記載されたボタンを押してこれらのアクションを実行します。

Q-Flash™ ユーティリティを使用する :

本項では、Q-Flash ユーティリティを使用して BIOS を更新する方法を示します。上の「Before you begin」で説明したように、マザーボード用の BIOS ファイルを含むフロッピーディスクを準備し、コンピュータに挿入する必要があります。システムにフロッピーディスクをすでに挿入して Q-Flash ユーティリティを起動している場合、以下のステップに従って BIOS をフラッシュしてください。

ステップ :

1. キーボードの矢印ボタンを押し明るいバーを Q-Flash メニューの「Update BIOS from Floppy」アイテムに移動し、Enter ボタンを押します。
ボックスがポップアップ表示され、フロッピーディスクにダウンロードしておいた BIOS ファイルを示します。



バックアップのために現在の BIOS を保存したい場合、「Save BIOS to Floppy」アイテムでステップ1を開始できます。

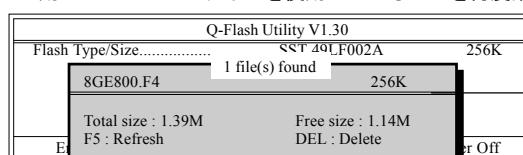
2. フラッシュしたい BIOS ファイルに移動し、Enter を押します。

この例で、フロッピーディスクには1つの BIOS ファイルのみしかダウンロードしないため、1つの BIOS ファイル、8GE800.F4だけが表示されています。

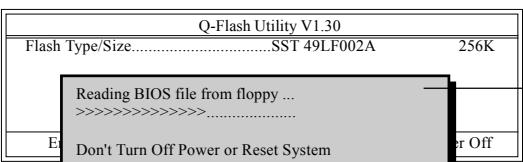


マザーボード用の正しい BIOS ファイルを使用していることを再度確認してください。

CAUTION



フロッピーディスクの BIOS ファイル。



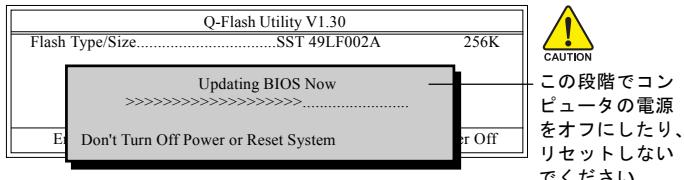
この段階でコンピュータの電源をオフにしたり、リセットしないでください。

BIOS ファイルを読み込むと、「Are you sure to update BIOS?」と尋ねる確認ダイアログボックスが表示されます。

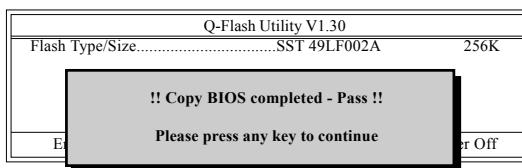


BIOS の更新が始またらフロッピーディスクを取り出さないでください。

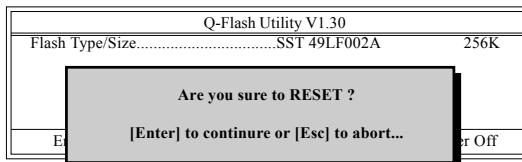
3. BIOS の更新を決めたら、キーボードの Y ボタンを押します。
BIOS の更新が始まります。 BIOS 更新の進捗状況が同時に表示されます。



4. BIOSの更新手順が完了した後、どれかのキーを押すとQ-Flashメニューに戻ります。



5. Escを次にYボタンを押してQ-Flashユーティリティを終了します。Q-Flashを終了すると、コンピュータが自動的に再起動します。



システムが再起動した後、起動画面の BIOS バージョンはフラッシュしたバージョンになります。

更新後、BIOS
ファイルはF4
になります



6. システムが再起動した後、Delを押すとBIOSメニューに入り、「Load BIOS Fail-Safe Defaults」します。 BIOS フェールセーフデフォルトをロードする方法については、パート1のステップ6から7を参照してください。

お疲れ様でした!! BIOS は正常に更新されました。



方式2: @BIOS™ ユーティリティ
DOS起動ディスクがない場合には、新しい@BIOSユーティリティを利用することをお勧めします。@BIOSはWindowsの下でBIOSを更新します。目的の@BIOSサーバーを選択してBIOSの最新バージョンをダウンロードしてください。

図1. @BIOSユーティリティをインストールします。



図3. @BIOSユーティリティ。

図2. インストールを完了し@BIOSを実行します。

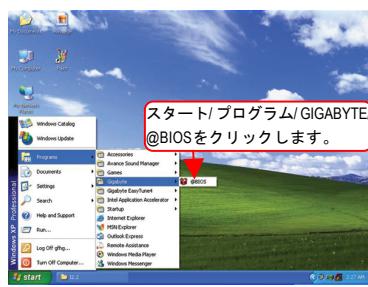


図4. 目的の@BIOSサーバーを選択します。



1. 方式とステップ :

- インターネットでBIOSをアップデート。
 - 「Internet Update」アイコンをクリックします。
 - 「Update New BIOS」アイコンをクリックします。
 - @BIOS™サーバーを選択します。
 - 使用するマザーボードのモデル名を正確に選択します。
 - 自動的にBIOSがダウンロードされ、アップデートされます。
- インターネットを使用せずにBIOSをアップデート :
 - 「Internet Update」アイコンをクリックしません。
 - 「Update New BIOS」をクリックします。
 - 古いファイルを開いている間に、ダイアログボックスで「All Files」を選択してください。
 - BIOS解凍ファイルをインターネットなどから探し、ダウンロードしてください(例: 8TRX330-L.F1)。
 - 下記の指示に従い、アップデートプロセスを完了します。

III. BIOSの保存

最初の方で、「Save Current BIOS」アイコンがダイアログボックスに表示されます。このアイコンは、現在のBIOSバージョンを保存することを意味します。

IV. サポートするマザーボードとフラッシュROMのチェック :

最初の方で、「About this program」アイコンがダイアログボックスに表示されます。サポートするマザーボードの種類とフラッシュROMのブランドについての情報を得ることができます。

2. 注 :

- I. 方式Iで、選択する複数のマザーボードのモデル名が表示されるときは、マザーボードのモデル名を再度確認してください。間違って選択すると、システムが起動しません。
- II. 方式IIで、BIOS解凍内のマザーボードのモデル名がご使用のマザーボードのモデル名と合致しているかどうかを確認してください。合致していないと、システムが起動しません。
- III. 方式Iで、BIOSファイルが@BIOS™サーバー内に見つからないときは、GigabyteのWebサイトからダウンロードし、方式IIに従ってアップデートしてください。
- IV. 更新中に中断するとシステムが起動しなくなります。

4-1-3 2 / 4 / 6 チャンネルオーディオ機能の概要

Windows 2K/XP のインストールはきわめて簡単です。次のステップに従って、機能をインストールしてください。

ステレオスピーカーの接続と設定 :

ステレオ出力を適用する場合、最高のサウンド効果を得るにはアンプ付きスピーカーの使用を推奨します。

ステップ1:

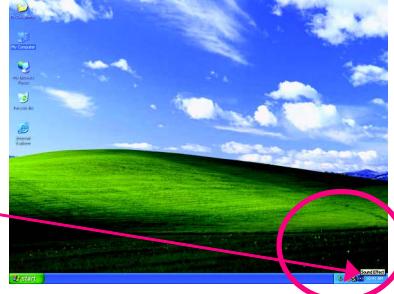
スピーカーまたはイヤホーンを「ライン出力」に接続します。



ライン出力

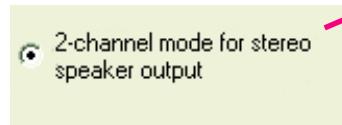
ステップ2:

オーディオドライバのインストール後、タスクバーのシステム領域に アイコンが表示されます。画面下部の Windows トレイから、オーディオアイコン「サウンドエフェクト」をクリックします。



ステップ3:

「スピーカー構成」を選択し、「ステレオスピーカー出力用の2チャンネル」を選択します。



4 チャンネルアナログオーディオ出力モード

ステップ1:

正面チャンネルを「ライン出力」に、背面チャンネルを「ライン入力」に接続します。



ライン出力 ライン入力

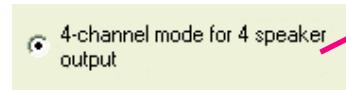
ステップ2:

オーディオドライバのインストール後、タスクバーのシステム領域に アイコンが表示されます。画面下部のWindowsトレイから、オーディオアイコン「Sound Effect」をクリックします。

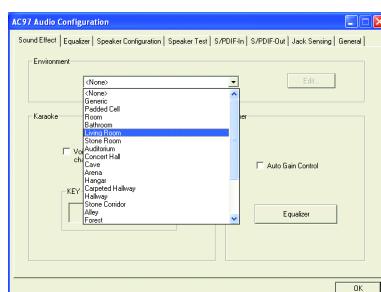


ステップ3:

「Speaker Configuration」を選択し、「4 channel for 4 speakers output」を選択します。
「Only SURROUND-KIT」を無効にし、「OK」を押します。



「Environment settings」が「None」のとき、サウンドはステレオモード(2チャンネル出力)として演奏されます。4チャンネル出力の場合は、他の設定を選択してください。



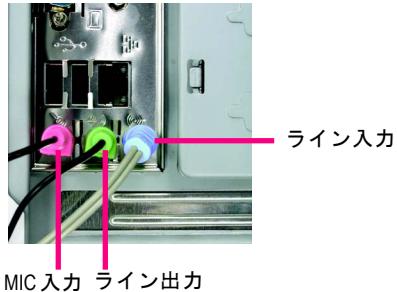


基本 6 チャンネルアナログオーディオ出力モード

背面オーディオパネルを使用し、モジュールを追加せずにオーディオ出力を接続します。

ステップ1:

正面チャンネルを「ライン出力」に、背面チャンネルを「ライン入力」に、中央/サブウーファチャンネルを「MIC 入力」に接続します。



ステップ2:

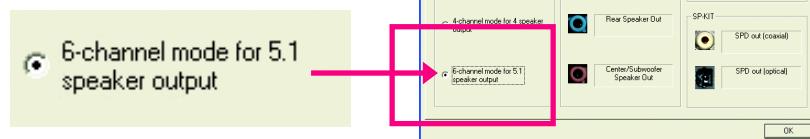
オーディオドライバのインストール後、タスクバーのシステム領域に アイコンが表示されます。画面下部の Windows トレイから、オーディオアイコン「Sound Effect」をクリックします。



ステップ3:

「Speaker Configuration」を選択し、「6 channel for 5.1 speakers output」を選択します。

「Only SURROUND-KIT」を無効にし、「OK」を押します。



拡張 6 チャンネルアナログオーディオ出力モード（オーディオコンポキットを使用する、オプションのデバイス）：

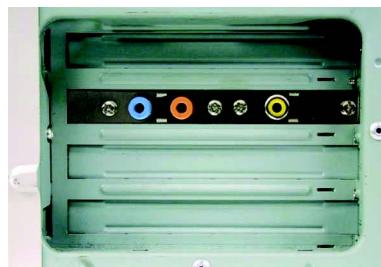
（オーディオコンポキットは SPDIF 出力ポート：光 / 同軸およびサラウンドキット：背面 R/L および中央 / サブウーファを提供します）

背面チャンネルおよび中央 / サブウーファ チャンネルへのサラウンドキットアクセスアナログ出力。6 チャンネル出力、ライン入力および MIC を同時に必要とする場合、これが最高のソリューションです。「SURROUND-KIT」は、図のような GIGABYTE 固有の「Audio Combo Kit」に含まれています。



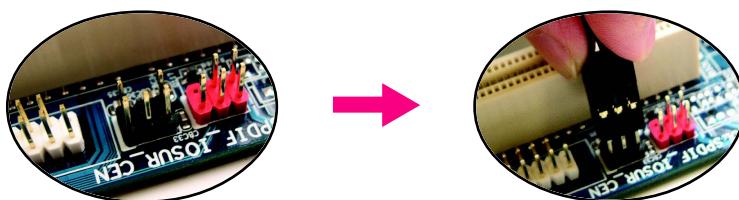
ステップ1:

ケースの背面に「Audio Combo Kit」を挿入し、ネジで固定します。



ステップ2:

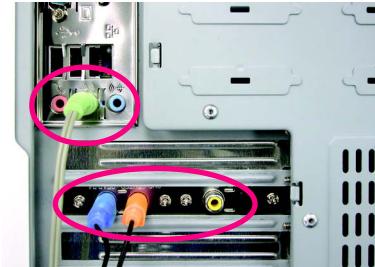
「SURROUND-KIT」をマザーボードの SUR_CEN に接続します。





ステップ3:

正面パネルを背面オーディオパネルの「ライン出力」に、背面チャンネルをサラウンドキットの背面R/Lに、中央/サブウーファチャンネルをサラウンドキットのサブ中央に接続します。



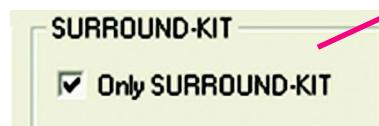
ステップ4:

画面下部のWindowsトレイから、オーディオアイコン「Sound Effect」をクリックします。



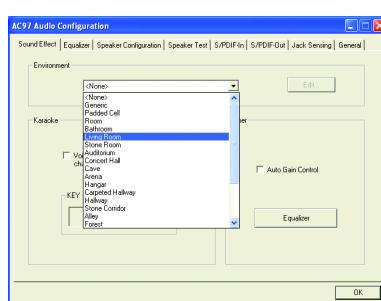
ステップ5:

「Speaker Configuration」を選択し、「6 channel for 5.1 speakers output」を選択します。
「Only SURROUND-KIT」を有効にし、「OK」を押します。



基本および拡張 6 チャンネルアナログオーディオ出力モードの注 :

「Environment settings」が「None」のとき、サウンドはステレオモード(2チャンネル出力)として演奏されます。6チャンネル出力の場合は、他の設定を選択してください。



SPDIF 出力デバイス（オプションのデバイス）

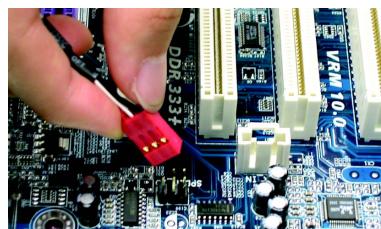
「S/PDIF 出力」デバイスは、マザーボードで使用できます。背面プラケットの付いたケーブルが提供され、「S/PDIF出力」コネクタにリンクできます(図参照)。デコーダへのリンクを確立するために、背面プラケットは同軸ケーブルとファイバー接続ポートを提供しています。



1. SPDIF 出力デバイスを PC の背面プラケットに接続し、ネジで固定します。



2. SPDIF ワイヤをマザーボードに接続します。



3. 同軸または光学出力を AC3 でコーダに接続します。





4-2 トラブルシューティング

下記はよくある質問集です。特定のマザーボードのモデルに対しての質問につきましては、<http://tw.giga-byte.com/faq/faq.htm>のホームページをご参照ください。

Q1: BIOSのアップデートを行った後に、いくつかのオプションが見えなくなってしまいました。なぜでしょうか?

A: いくつかのアドバンスドオプションは新しいBIOSの中に隠れています。CtrlキーとF1キーを押し、BIOS画面に入るとそのオプションを見ることができます。

Q2: なぜコンピュータの電源を切った後でも、キーボードと光学マウスのライトが点灯しているのですか?

A: いくつかのボードでは、コンピュータの電源を切った後でも少量の電気でスタンバイ状態を保持しているので、点灯したままになっています。

Q3: EasyTune 4で使えない機能があります。

A: 使用可能なEasyTune 4の機能リストはマザーボードのチップセットに依存します。チップセットがEasyTune 4のいくつかの機能をサポートしていない場合はそれらの機能は自動的にロックされ、使用することができません。

Q4: RAID機能をサポートするボード上で、ブートHDDをIDE3またはIDE4に接続した後、Win 2000とXPの環境にRAIDとATAのドライバのインストールができません。

A: ドライバをインストールする前に、まず、CD-ROMの中のいくつかのファイルをフロッピーディスクにコピーする必要があります。もしくは違うインストールのステップを踏んでみる必要があります。従って、弊社のホームページのRAIDマニュアルのインストールステップをご参照ください。

(http://tw.giga-byte.com/support/user_pdf/raid_manual.pdfをダウンロード)

Q5: CMOSをクリアするには?

A: ボードがクリアCMOSジャンパを装備している場合はマニュアルのクリアCMOSステップの部分をご参照ください。装備していない場合は、オンボードのバッテリを漏電させることでCMOSをクリアすることができます。下記のステップをご参照ください。

ステップ:

1. コンピュータの電源を切ります。
2. マザーボードから電源コードを外します。
3. バッテリを取り外し、10分ほどよけておきます(または金属製の物体でバッテリフォルダーの陽極と陰極をつなぎ1分間ショートさせることも可能です)。
4. バッテリをバッテリフォルダーに再度差し込みます。
5. マザーボードに電源コードを再度接続し、コンピュータの電源を入れます。
6. Delキーを押し、BIOSのロードフェールセーフデフォルトに入ります。
7. 変更を保存し、システムを再起動します。

Q6: BIOSのアップデートを行った後にシステムが不安定になったように思われますが?

A: BIOSを表示させた後、フェールセーフデフォルト(もしくはロードBIOSデフォルト)をロードしてください。それでも、システムが不安定な場合はCMOSをクリアすることで問題を解決することができます。

Q7: なぜ最大音量でスピーカーをオンにしても弱い音しか聞こえてこないのでしょうか?

A: お使いのスピーカーが内蔵のアンプを使用しているかどうかを確認してください。もし使用していない場合には、電源とアンプを装備した別のスピーカーに取り替えた後に再度お試しください。

Q8: 外付けのVGAカードを増設したいので、どうやってオンボードのVGAカードを無効に設定したらいいのですか?

A: Gigabyteのマザーボードは自動的に外付けのVGAカードを検出しますので、オンボードVGAの設定を手動で無効にする必要はありません。

Q9: なぜ IDE 2 が使用できないのですか?

A: ユーザーマニュアルをご参照していただくか、前面 USB パネルの USB Over Current ピンに今接続されているケーブルがマザーボードパッケージによって供給されていないものかを確認してください。もしも自身でお持ちのケーブルを使用している場合は、それをこのピンから外し、自分のケーブルは接続しないでください。

Q10: システムを起動した後、コンピュータからときどき違う連續性のビープ音が聞こえてくるのですが、この音は何を意味しているのでしょうか?

A: 下のビープ音のコードを参照してコンピュータに発生している問題を確認してください。ただし、これらは参考に過ぎません。ケースにより状況は異なります。

→ AMI BIOS ビープコード

- * システムの起動に成功した場合はコンピュータは1回の短いビープ音を鳴らします。
- * コード8以外は致命的な問題があることを通知します。
 - 1ビープ 更新失敗
 - 2ビープ パリティエラー
 - 3ビープ 基本64Kメモリーフェイル
 - 4ビープ タイマが非動作
 - 5ビープ プロセッサエラー
 - 6ビープ 8042-ゲートA20フェイル
 - 7ビープ プロセッサの例外阻止エラー
 - 8ビープ メモリの読み込み/書き込み表示エラー
 - 9ビープ ROM照合エラー
 - 10ビープ CMOSシャットダウン記録読み込み/書き込みエラー
 - 11ビープ キャッシュメモリ不具合

→ AWARD BIOS ビープコード

- 1短: システム起動成功
- 2短: CMOS設定エラー
- 1長1短 : DRAM またはマザーボードエラー
- 1長2短 : モニターまたはディスプレイカードエラー
- 1長3短: キーボードエラー
- 1長9短: BIOS ROM エラー
- 連続のビープ(長): DRAM エラー
- 連続のビープ(短): 電源エラー

Q11: RAID 機能を持つマザーボードの場合、RAID または ATA モードで、IDE3、4 から起動するためには BIOS をどのように設定すればいいのですか?

A: 次のように BIOS を設定してください。

1. アドバンスト BIOS 機能 -->(SATA)/RAID/SCSI 起動オーダー: 「SATA」
2. アドバンスト BIOS 機能 --> 最初の起動デバイス: 「SCSI」
3. 統合周辺装置--> オンボードH/W ATA/RAID: 「enable」

RAID コントロール機能で「RAID」を RAID モードにまたは「ATA」を標準の ATA モードに設定する必要があるかどうかは、RAID モードによって異なります。

Q12:IDE/ SCSI/ RAID カードから起動するためには BIOS をどのように設定すればいいのですか?

A: 次のように BIOS を設定してください。

1. アドバンスト BIOS 機能 -->(SATA)/RAID/SCSI 起動オーダー: 「SCSI」
2. アドバンスト BIOS 機能 --> 最初の起動デバイス: 「SCSI」

RAID/ SCSI BIOS を設定する必要があるかどうかはモード (RAID または ATA) によって異なります。

日本語

日本語

日本語

日本語

日本語

日本語



連絡先

▪ Taiwan (Headquarters)

GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD.
Address: No.6, Bau Chiang Road, Hsin-Tien, Taipei Hsien,
Taiwan

TEL: +886 (2) 8912-4888
FAX: +886 (2) 8912-4003

Tech. Support:
<http://tw.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing):
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
WEB address (English): <http://www.gigabyte.com.tw>
WEB address (Chinese): <http://chinese.giga-byte.com>

▪ U.S.A.

G.B.T. INC.
Address: 17358 Railroad St, City of Industry, CA 91748.
TEL: +1 (626) 854-9338

FAX: +1 (626) 854-9339
Tech. Support:
<http://www.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing):
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
WEB address : <http://www.giga-byte.com>

▪ Germany

G.B.T. TECHNOLOGY TRADING GMBH
Address: Friedrich-Ebert-Damm 112 22047 Hamburg

TEL: +49-40-2533040 (Sales)
+49-1803-428468 (Tech.)
FAX: +49-40-25492343 (Sales)
+49-1803-428329 (Tech.)

Tech. Support:
<http://de.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing):
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
WEB address : <http://www.gigabyte.de>

▪ Japan

NIPPON GIGA-BYTE CORPORATION
WEB address : <http://www.gigabyte.co.jp>

▪ Singapore

GIGA-BYTE SINGAPORE PTE. LTD.
Tech. Support:
<http://tw.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing):
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>

▪ U.K.

G.B.T. TECH. CO., LTD.
Address: GUnit 13 Avant Business Centre 3 Third Avenue,
Denbigh West Bletchley Milton Keynes, MK1 1DR, UK, England
TEL: +44-1908-362700
FAX: +44-1908-362709

Tech. Support:
<http://uk.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing):
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
WEB address : <http://uk.giga-byte.com>

▪ The Netherlands

GIGA-BYTE TECHNOLOGY B.V.
TEL: +31 40 290 2088
NL Tech.Support: 0900-GIGABYTE (0900-44422983)
BE Tech.Support: 0900-84034
FAX: +31 40 290 2089
Tech. Support:
<http://nz.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing):
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
WEB address : <http://www.giga-byte.nl>





● China

NINGBO G.B.T. TECH. TRADING CO., LTD.

Tech. Support :

<http://cn.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>

Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :

<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>

WEB address : <http://www.gigabyte.com.cn>

Shanghai

TEL: +86-021-63410999

FAX: +86-021-63410100

Beijing

TEL: +86-010-82886651

FAX: +86-010-82888013

Wuhan

TEL: +86-027-87851061

FAX: +86-027-87851330

GuangZhou

TEL: +86-020-87586074

FAX: +86-020-85517843

Chengdu

TEL: +86-028-85236930

FAX: +86-028-85256822

Xian

TEL: +86-029-85531943

FAX: +86-029-85539821

Shenyang

TEL: +86-024-23960918

FAX: +86-024-23960918-809

● Australia

GIGABYTE TECHNOLOGY PTY. LTD.

Address: 3/6 Garden Road, Clayton, VIC 3168 Australia

TEL: +61 3 85616288

FAX: +61 3 85616222

Tech. Support :

<http://www.giga-byte.com.au/TechSupport/ServiceCenter.htm>

Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :

<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>

WEB address : <http://www.giga-byte.com.au>

● France

GIGABYTE TECHNOLOGY FRANCES S.A.R.L.

Tech. Support :

<http://tw.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>

Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :

<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>

WEB address : <http://www.gigabyte.fr>

● Russia

Moscow Representative Office Of Giga-Byte Technology Co., Ltd.

Tech. Support :

<http://tw.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>

Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :

<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>

WEB address : <http://www.gigabyte.ru>

● Poland

Representative Office Of Giga-Byte Technology Co., Ltd.

POLAND

Tech. Support :

<http://tw.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>

Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :

<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>

WEB address : <http://www.gigabyte.pl>
